



第2次五泉市生涯学習推進基本計画

2018～2023 年度（計画期間 1 年延長版）



ともに学び ともにつくる 五泉の生涯学習



2018（平成 30）年 3 月 五泉市教育委員会





～ 目 次 ～

第1章 計画策定にあたって	1
1. 計画の趣旨	1
2. 国や県の動向	2
(1) 国の動向	2
(2) 県の動向	2
3. 五泉市の生涯学習の取り組み状況	3
(1) これまでの歩み	3
(2) 各施策の取り組み状況	4
第2章 計画の概要	10
1. 生涯学習推進の基本的な考え方	10
2. 計画の目的	10
3. 計画の位置づけ	10
4. 計画の期間	11
第3章 基本理念・重要な視点と戦略目標・計画の体系	12
1. 基本理念	12
2. 目標達成のための基本姿勢	12
3. 施策の体系図	14
第4章 生涯学習の施策展開	15
1. 生涯学習の充実	15
2. 生涯スポーツの推進	20
3. 芸術文化活動の推進	24
4. 図書に親しむ環境づくりの推進	28
5. 文化財の保護と利活用	32
6. 青少年を地域ぐるみで育む環境づくり	36
第5章 生涯学習の推進に向けて	40
 <付属資料>	
○「生涯学習に関する市民意識調査」(集計結果)	44
○第2次五泉市生涯学習推進基本計画策定経過	60
○第2次五泉市生涯学習推進基本計画策定委員名簿	61
○用語解説	62

第1章 計画策定にあたって

1. 計画の趣旨

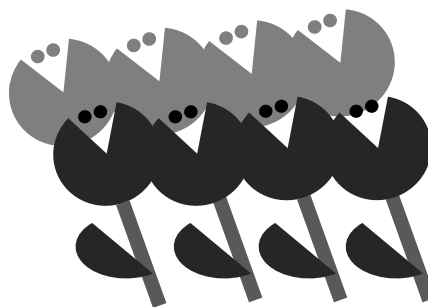
1965（昭和40）年のユネスコ[※]による生涯学習概念の提唱を契機に、1981（昭和56）年の中央教育審議会[※]答申等により生涯学習が推進され、2006（平成18）年の法改正では教育基本法に生涯学習が正式に位置づけられました。

生涯学習とは、市民が生涯に行うあらゆる学習、すなわち、学校教育、社会教育、文化活動、スポーツ活動、レクリエーション活動、ボランティア活動、企業内教育、趣味などさまざまな場や機会において行う学習の意味で用いられます。

2006（平成18）年1月に旧五泉市・旧村松町が合併した五泉市では、2008（平成20）年に新生「五泉市」としてはじめての「五泉市生涯学習基本構想・基本計画」を策定、以後、後期計画を挟み、生涯学習の推進に努めてきました。

この10年で、高度な情報化や科学技術の進展とともに、就業形態の多様化、経済等のグローバル化、環境問題の深刻化や自然災害の増加など、社会環境は大幅に変化しています。刻々と変化する社会で直面するさまざまな課題に対応していくためには、学校教育で得た知識や技能にとどまることなく、生涯で継続した学びが必要です。また、高齢化社会や余暇時間の増大などから、生きがいや心の豊かさ、生涯にわたる社会参加も求められています。地域の課題解決や絆の形成にも、生涯学習は大きな役割を果たし、地域の活力をつくり出していきます。

以上を実現するために、多様化する生涯学習のニーズに応えながら市民の誰もがいつでも、生涯にわたり学習を継続できる社会の実現に向けた指針となるよう、本計画を策定します。



2. 国や県の動向

(1) 国の動向

国では2013（平成25）年度から2017（平成29）年度を期間とする「第2期教育振興基本計画[※]」のもと、生涯学習を推進しています。

中央教育審議会では、2016（平成28）年に「個人の能力と可能性を開花させ、全員参加による課題解決社会を実現するための教育の多様化と質保証の在り方について(答申)」をまとめました。社会情勢のめまぐるしい変化と課題の複雑化の中で、誰もが時代の変化に応じて新たな知識・技術や技能を身に付けることができる「学び続ける」社会の実現とともに、「『学び』と『活動』の循環」として、社会において学びの成果が適切に評価され活用されること、ICT[※]活用、地域住民が互いにネットワークを構築し社会貢献や地域課題解決に取り組むことなどを重要としています。

現在、2018（平成30）年度から5か年を期間とする「第3期教育振興基本計画」が検討されています。その基本的な方針では、2030年以降は人口の3分の1が高齢者になることを踏まえ「生涯学び、活躍できる環境を整える」ために、働きながら学び直すことや、障害者の自己実現をめざす生涯学習の推進、人生100年を見据えた「二つ目の人生を生きる力」の養成など、全ての人が継続して学習できる環境の整備などが検討されています。

(2) 県の動向

新潟県では、2013（平成25）年度から2016（平成28）年度（のちに2017年度まで延長）を計画期間とする「第2次新潟県生涯学習推進プラン（改定版）」のもと、県民一人ひとりの主体的な学びと実践に支えられた「持続可能な未来」を実現するための生涯学習社会をめざし、学習機会の充実に努め、学習成果の活用を促すための各種施策を実施しています。

「第2次新潟県生涯学習推進プラン（改訂版）評価結果報告書」（2017年3月）では、この期間の取り組みの進捗状況を「概ね順調」と評価しました。今後の課題としては、「『学び』と『活動』の橋渡し」を担える人材の育成と情報共有のしくみづくりなどを挙げ、基本的施策・重点施策の全てにおいて「多様な主体の連携・協働・ネットワーク化」が取り組みを充実させるキーポイントになるとしています。

これらの評価結果などを踏まえ、現在、2018（平成30）年度からを計画期間とする「第3次新潟県生涯学習推進プラン」の検討を進めているところです。

3. 五泉市の生涯学習の取り組み状況

(1) これまでの歩み

本市では、2008（平成 20）年度に「学び合い皆がいきいきと暮らし、地域がふれあい互いに育む五泉市の生涯学習」を将来像とした 2017（平成 29）年度までの 10 年間を計画期間とする「生涯学習基本構想」並びに 2012（平成 24）年度までの「前期基本計画」を策定、また、2013（平成 25）年度には、2017（平成 29）年度までの「後期基本計画」を策定し、まちづくりを推進してきました。



健康増進・体力づくり事業



音楽祭・芸能祭開催事業～芸能祭（五泉会場）～

(2) 各施策の取り組み状況

① 生涯学習の充実

誰もが気軽に学ぶことができ、学んだことを通じて社会に貢献できるような機会の充実をめざし、退職した市民が職種経験を活かして生涯学習指導者になるなどの「民間指導者の育成・活用」や、子どもがのびのびと活動できる場をつくる「寺子屋」事業などを推進してきました。また「公民館の有効活用」や「生涯学習施設の計画的な整備」など、市民が利用しやすい地域に密着した生涯学習の環境づくりを図ってきました。

代表的な事業（担当課）	内容・取り組み状況
ごせん生き生き楽習達人バンク 推進事業 (生涯学習課)	市内に在住、在勤している満 20 歳以上が登録できる、学習指導者登録制度。指導者の利用は一般の方の要望と、市内の小中学校からの要請に基づく派遣の 2 通りがある。「いつでも」「だれでも」「どこでも」気軽に学習活動ができることを目的としている。 (登録者数 H22 : 119 人、32 団体 →H28 : 127 人、25 団体)
学校支援者派遣制度 (生涯学習課)	達人バンク登録者が教員の補助者として児童生徒の指導に当たり、地域の教育力を活かした教育活動の推進に寄与し、学校教育と社会教育の融合を図った。 (利用回数 H22 : 93 回→H28 : 81 回)
きなせや楽習大学事業 (生涯学習課)	達人バンクに登録した指導者等が、自ら講座を開設し、市民の生涯学習への参加を推進した。受講者の減少は、講座の受講者が自主サークルを設立し、きなせや楽習大学を卒業した例がある。また、指導者の高齢化などによる開設講座数の減少などがあげられる。 (受講者数 H22 : 458 人→H28 : 191 人)
寺子屋事業 (生涯学習課)	市内在住の小学生を対象に、豊かな体験活動を通し、自他を大切にしよう人間関係の醸成・自学自習の生活習慣の形成・基礎学力の向上を図るためののびのび学習教室として事業を展開。 (参加児童 H22 : 348 人→H28 : 317 人)
複合施設建設推進事業 (主管：都市整備課)	「第 1 次総合計画後期基本計画」において、「(仮称)生涯学習センター」「(仮称)産業振興センター」をそれぞれ文化・観光の拠点施設として位置づけ、市民からの要望が強い施設として、双方の機能を持ち合わせた複合施設としての可能性を模索し、H28.9 に基本計画を策定し公表した。

② 生涯スポーツの推進

子どもの体力・運動能力低下防止や青・壮年期の生活習慣病予防、高齢者の介護予防・健康増進など、それぞれのライフステージ※に応じた「生涯スポーツ活動の推進」に努めてきました。また、市民の交流を促進し、スポーツ活動への関心を高め競技力の向上を図るため、各種大会の実施や、スポーツ指導者及び団体等の育成強化に努め、さらに利用者の安全性や利便性を考えながら、既存のスポーツ施設を最大限に活用した「施設の改修や付属施設等の整備・充実」を行ってきました。

代表的事業（担当課）	内容・取り組み状況
健康増進・体力づくり事業 (スポーツ推進課)	市民の健康維持や体力増進を図ることを目的に、運動へのきっかけづくりとして、高齢者でも無理なく実施できる健康ウォークを開催した。幼児から高齢者まで幅広い年齢層を対象とした体力づくり教室を実施してきた。 (総合型地域スポーツクラブ※「ヴィガ」に委託) (実施人数 H22：5,422 人→H28：5,928 人)
総合型地域スポーツクラブ事業 (スポーツ推進課)	子どもから高齢者まで、市民が気軽に参加できるような運動教室やイベントを行うスポーツクラブ。会員同士の交流を通して、地域コミュニティの形成にもつながるクラブを理想とする、総合型地域スポーツクラブ「ヴィガ」を支援してきた。 (参加人数 H26：4,546 人→H28：4,965 人)
スポーツ・レクリエーション大会 (スポーツ推進課)	市民のスポーツへの理解と関心を高めるために、体育の日を中心に各種大会を実施した。また、軽スポーツも導入し、気軽に参加できるように配慮するなど活力ある大会の実施をめざした。 (参加人数 H22：1,678 人→H28：1,528 人)
スポーツ競技者育成事業 (スポーツ推進課)	国民体育大会、インターハイなど、各種スポーツ等活動に関わる全国及びブロック大会等に、市、県などの代表として選手等が出場する際に派遣奨励を行ってきた。 (対象者数 H22：133 人→H28：131 人) (対象団体 H22：11 団体→H28：4 団体)
総合会館維持管理運営事業 体育施設管理事業 (スポーツ推進課)	市民のスポーツ活動等の拠点施設として常に快適に利用してもらうために、各種施設の修繕など施設利用者が安全・安心で使いやすい事業活動ができるよう、施設の維持管理と整備充実を図った。 ・総合会館改修事業（管理棟建設工事、大ホール改修工事、中ホール階段棟増築工事） ・粟島公園テニスコート整備工事 ・陸上競技場公認継続整備事業

③ 芸術文化の推進

市民が日々の暮らしの中で気軽に心の豊かさや潤いを得られるよう、質の高い「芸術文化の鑑賞機会の充実」を図るとともに、市民の「主体的・創造的な芸術文化活動」を支えるため、各種講座の開催や、市美術展覧会・文化展や芸能祭・音楽祭など展示・発表の機会を提供しました。また、多様化する学習ニーズに対応するため、生涯学習相談員を配置し「芸術文化団体の育成支援」を行うとともに、「文化施設の充実」にも努めてきました。

代表的事業（担当課）	内容・取り組み状況
芸術・文化市民発表事業 (生涯学習課)	市民の芸術や文化活動の成果発表の場、また鑑賞機会を提供し、市民の創造的な芸術や文化活動の一層の推進を図るとともに、芸術や文化に対する関心を高めた。 一方で芸術文化の団体数や構成員の減少により、入場者数も減少している。 (入場者数 H22 : 10,145 人→H28 : 8,022 人)
芸術・文化鑑賞事業 (生涯学習課)	市民の芸術文化に対する関心を高めるために、優れた芸術文化に触れる機会の充実を図った。 (入場者数 H22 : 1,812 人→H28 : 1,559 人)



芸術・文化鑑賞事業～さくらんどう吹奏楽の夕べ～



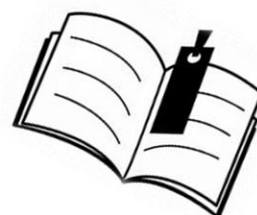
④ 図書に親しむ環境整備の推進

アンケート調査などによる市民のニーズの把握に努め、視聴覚資料を含めた「図書館資料の充実」を図るとともに、郷土・行政資料の収集・保存活動の取り組みを行いました。また、子どもたちの心の糧になるような本の選書を心がけ、絵本の読み聞かせや「おはなし会」などの機会を充実させ「子どもの読書活動」を推進しました。さらに「レファレンス・サービス※」のための職員研修を行い図書館の「調査研究機能の強化」を図り、駐車場の整備や書庫棟改築による「施設整備の充実」など、利用者の利便性の向上に努めてきました。

代表的事業（担当課）	内容・取り組み状況
蔵書整備事業 （図書館）	市民の要望を第一に考えて、予約・リクエストサービスに対応するため新刊購入などを迅速に行ってきた。入手困難な資料は、公共図書館との相互貸借制度を利用し、利用者に提供してきた。郷土・行政資料は可能な限り収集・保存に努めてきた。 （蔵書冊数 H22:162,469 冊→H28:199,026 冊）
おはなし会事業 （図書館）	子どもに本の楽しさを伝えるための、読書ボランティアによる絵本の読み聞かせや紙芝居などを行い読書推進に努めてきた。 （実施回数 H23：200 回→H28：221 回）
学校派遣司書事業 （図書館）	市内小中学校へ司書を派遣し、学校と連携をとりながら、子どもたちの読書習慣の推進を図った。 （派遣人数実績 H24：2 名→H28：3 名）



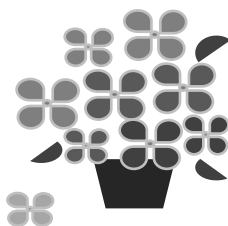
おはなし会事業～あわしま丸でおはなしタイム～



⑤ 文化財の保護と活用の推進

各関係者と連携・協力を行いながら、市内に残る文化財をより良い状態で保存・整備することに努め、文化財をテーマにした講座やツアーの開催、出土した遺物や記録資料の総合学習（小中学校）への利用など「指定文化財や埋蔵文化財の保存と活用」を進めてきました。また、郷土資料館を活用して特別展や公開展示を行い「文化展示施設の充実」を図り、市の広報紙やホームページに記事を掲載し郷土の文化財についての「情報発信の充実」に努めてきました。

代表的事業（担当課）	内容・取り組み状況
文化財維持管理等支援事業 (生涯学習課)	所有者等の協力を得ながら市内に残る貴重な文化財をより良い状態で保存するとともに新たな指定物件の調査に努めた。 (指定文化財の件数 H22：50 件→H28：60 件)
文化財等の公開・活用事業 (生涯学習課)	平成 24 年度に作成した文化財パンフレットを活用し、郷土の自然や歴史等に関する情報発信に努めた。また、市民に広く関心をもってもらうために「文化財めぐり」などを開催。 (参加者数 H26：19 人→H28：28 人)
郷土資料館運営管理事業 (生涯学習課)	郷土資料館を活用し、文化財等の公開展示を行うとともに、郷土史研究者や文化財所有者の協力を得ながら、魅力ある特別展等を開催し、郷土の歴史や文化財を知る機会の充実に努めた。 (利用者数 H22：1,174 人→H28：1,537 人)



郷土資料館運営管理事業～郷土資料館～

⑥ 青少年を地域ぐるみで育む環境整備の推進

少子化やめまぐるしい社会環境の変化を背景に、各家庭だけでは対処しきれない問題が増える中、「地域の子どもは、地域で守る」という意識の定着とともに「青少年健全育成を推進する体制の強化・及び関係団体の連携促進」や「街頭指導と相談体制の充実」に努めてきました。また、市内幼稚園・保育園、小中学校に「家庭教育学級」の開設を委託し、保護者が自主的に家庭での「生活習慣の大切さ」を学ぶ支援を行い、「家庭教育力の充実」を図りました。また、子どもたちの、自立性やコミュニケーション能力の向上を目的とし、「生き生き通学合宿」や「地域子ども交流会事業」を開催し、子どもたちの「地域での活動機会と活動の場の充実」をめざしてきました。

代表的事業（担当課）	内容・取り組み状況
家庭教育学級事業 (生涯学習課)	市内幼稚園、保育園、小中学校に委託し、家庭教育のあり方、取り組み方について組織的な研修をし、家庭の教育力向上を図った。 (延べ参加者数 H22 : 8,888 人→H28 : 11,323 人)
ネットワーク会議事業 (生涯学習課)	青少年健全育成に関連する各団体の活動や問題点について意見交換し、情報の共有化を図った。 (参加者数 H22 : 50 人→H28 : 65 人)
街頭指導員事業 (生涯学習課)	通常の街頭指導のほか、祭りや地域の伝統行事、学校の長期休業期間中に街頭巡視を行った。 (巡視者延べ人数 H22 : 617 人→H28 : 500 人)
相談事業 (生涯学習課)	悩みをもつ青少年に対する相談体制の充実や、学校との連携、家庭訪問等を行い援助、指導に努めた。各学校の相談体制の充実により育成センターの相談件数が減少した。 (相談件数 H22 : 1,027 件→H28 : 354 件)
生き生き通学合宿事業 (生涯学習課)	子どもたちが親元から離れ、異年齢での共同生活をしながら通学することにより、家庭の大切さを認識するとともに、子ども同士の触れ合いやコミュニケーションの中から人間関係を深め、生きることの実感や喜びを感じ取ることを目的とした。 (延べ参加児童 H22 : 156 人→H28 : 221 人)

第2章 計画の概要

1. 生涯学習推進の基本的な考え方

「第1次生涯学習基本構想・基本計画」が一定の効果をあげてきましたが、さらに第2次計画では「学ぶ」「活かす」の機会を増やすことで、より市民の自発性を引き出す施策の展開を考慮します。

2017（平成29）年4月に策定された「第2次五泉市総合計画」の基本政策である「いきいきの泉」の中の「ともに学び生きがいをもてるまちづくり」及び「ふれあいの泉」の中の「青少年を地域ぐるみで育むまちづくり」が実現できるよう、生涯学習の面から、同計画の目標の達成をめざした施策の展開を図ります。

2. 計画の目的

本計画は、本市における生涯学習施策を、総合的、体系的に推進することを目的としています。

教育行政部門・教育機関のみならず、一般行政部門や関係団体等とも連携し、効果的に施策を展開し、全ての市民に生涯学習が波及することをめざしています。

策定にあたっては、市民の生涯学習状況に関する実態調査による現状把握、五泉市社会教育委員兼公民館運営審議会における協議、計画に対するパブリック・コメントの募集などを行い、市民の参画を得ることを心がけました。

3. 計画の位置づけ

「第2次五泉市総合計画（2017～2026年度）」の基本政策である「いきいきの泉」の中の「ともに学び生きがいをもてるまちづくり」及び「ふれあいの泉」の中の「青少年を地域ぐるみで育むまちづくり」の実現に向け、生涯学習分野の個別計画として策定します。

策定にあたっては、「第2次五泉市総合計画」のほか、各種行動計画との整合性を保ちながら検討するものとします。

急激な社会情勢の変化、市民の強い要望などがあった場合は、必要に応じて見直します。

4. 計画の期間

当初の計画期間は、2018（平成30）年度から2022（令和4）年度までの5年間でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響から計画期間を1年延長し、2023（令和5）年度までとします。

2018～2023年度の6年間

年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
第1次五泉市総合計画 (2008～2017年度)	後期計画 (5年間)													
第1次生涯学習基本構 想・基本計画(後期計画)	2013～2017年度 (5年間)													
第2次五泉市総合計画 (2017～2026年度)						前期計画(5年間)					後期計画(5年間)			
第2次生涯学習推進基 本計画						2018～2022年度 (5年間)					計画延長			



生涯学習フェスティバル事業
～いずみちゃんフェスタ～



第3章 基本理念・重要な視点と戦略目標・計画の体系

1. 基本理念

これからのまちづくりには、市民の役割（自助）、地域の役割（共助）を果たしながら、市民・地域・行政・各種団体とが、お互いに知恵を出し合い行動する（協働）ことが求められています。

また、市民一人ひとりがいきいきと暮らし、ふれあいのある地域づくりを推進し、さらに次代を担う子どもたちを社会全体で育むということが必要とされています。そのためには生涯にわたり自ら学び、学んだ成果を地域に還元し、地域づくり・人づくりに役立つ姿勢をもった生涯学習が欠かせません。

こうした生涯学習社会の達成の目標として次のとおり基本理念を設定します。

ともに学び ともにつくる 五泉の生涯学習

2. 目標達成のための基本姿勢

基本理念「ともに学び ともにつくる 五泉の生涯学習」のめざす目標を達成するために定める本計画における具体的な施策に取り組んでいくにあたって、どの施策にも共通した課題を解決するため、担当課や事業の枠を越えて横断的・一体的に取り組むべき基本姿勢を、次のように定めます。

基本姿勢

市民一人ひとりの学びを支える
学びを活かせるしくみをつくる

「市民一人ひとりの学びを支える」「学びを活かせるしくみをつくる」という基本姿勢を重視し、学習機会・学習環境の充実を図り、学習成果を地域や社会貢献につなげるしくみづくりを推進します。

具体的には以下を重点戦略として、各事業に取り組みます。

< 重点戦略 >

◎ 情報提供の充実

市民の生涯学習を推進するには、若年層や多忙な年代の市民の学習意欲を高めたり、実際の学習に結びつけるための情報提供が重要です。「広報ごせん」など従来の手段でより効果的な発信を行うことに加え、対象者の年齢や活動範囲などをさらにきめ細かく配慮し、広報物の置き場所を工夫したり、インターネット経由での情報発信を充実させるなど、届けたい生涯学習情報が市民に的確に伝わる方法を検討していきます。

◎ 連携体制の充実

基本理念実現に向けて、学校・家庭・地域・行政の連携を強化します。また、行政が担ってきた役割を見直し、市民・民間事業者・NPO 法人・ボランティア、さまざまな組織や個人一人ひとりの活力や創造性と手を携えて、協働で取り組みを進めていきます。さらに、公民館・スポーツ施設・図書館・青少年育成施設などの「生涯学習施設」と学校や福祉施設、関連する部署と部署など、組織の枠組みを超えて連携しあう体制をさらに強化することで、より効果的・効率的な生涯学習の推進をめざします。

◎ 交流のまちづくりの拡大

市民の生涯学習の成果を発表する機会の充実が求められるとともに、学習成果をまちづくりに活かせるしくみが求められています。ともにつくる、交流のまちづくりに関する意識の啓発や生涯学習の成果を活かせる場づくりに努めます。また、まちづくりへの参加意欲のある方とまちづくりの活動を結びつける相談機能やコーディネーター機能も充実させ、少子高齢化社会における活力ある人づくりをめざし、市民が活動しやすい環境を整えていくよう努めます。

3. 施策の体系図



第4章 生涯学習の施策展開

1. 生涯学習の充実

基本方針

市民が、いつでも、どこでも、誰でも学べ、さらに学んだことを教えることで、学ぶ喜びと学び合う喜びを実感できるまちをめざします。

学習できる場の充実や情報提供等に努め、学習意欲の向上と多様な価値観に対応した学習ができる環境づくりを推進するとともに、地域での特色を活かした学習ができる体制の整備を推進します。

(1) 現状と課題

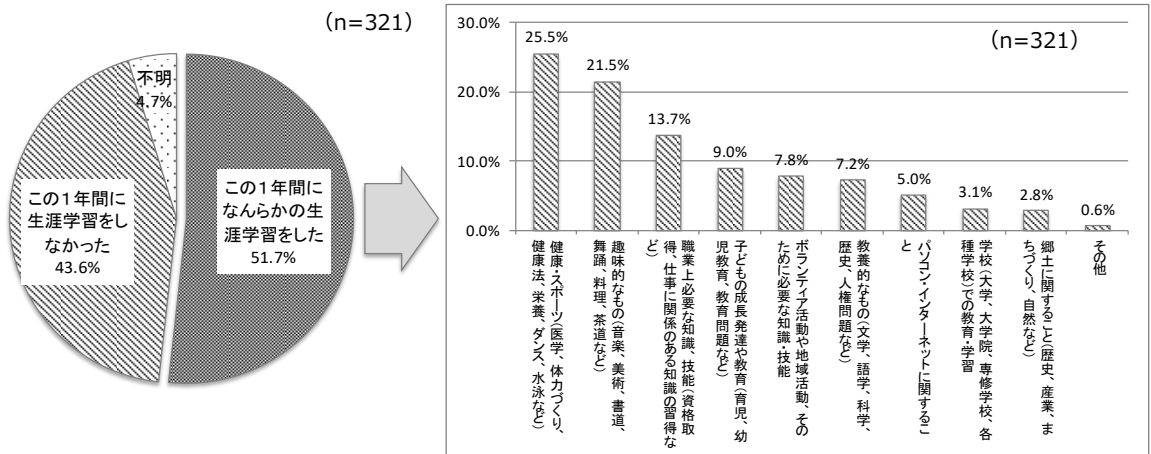
高齢化や高度情報化など、社会環境は大きく変化しており、生きがいや豊かな心の追求、社会参加など、生涯学習に対するニーズは多様化・高度化しています。「生涯学習に関する市民意識調査（平成 29 年）」（以下「市民意識調査」）の結果によると、市民の半数にあたる 51.7%は、この 1 年間に何らかの生涯学習を行っており、生涯学習をしている市民の 9 割以上、していない市民の中でも 60.7%は「今後したい」「どちらかといえばしたい」と回答するなど、生涯学習への意欲をもっています。このような意欲を実際の活動や継続につなぐために、誰もが気軽に参加できる学習機会の充実や、市民が自発的にグループやサークル活動を行うことができるしくみづくりなどが必要です。

一方で、生涯学習を通じて身につけた知識・技能等の活かし方について、「ボランティア活動や地域活動」「他の人への指導」など、社会的な活用を挙げた人はいずれも 10%台にとどまっています。学習の成果を社会や地域で活用できる支援が求められています。

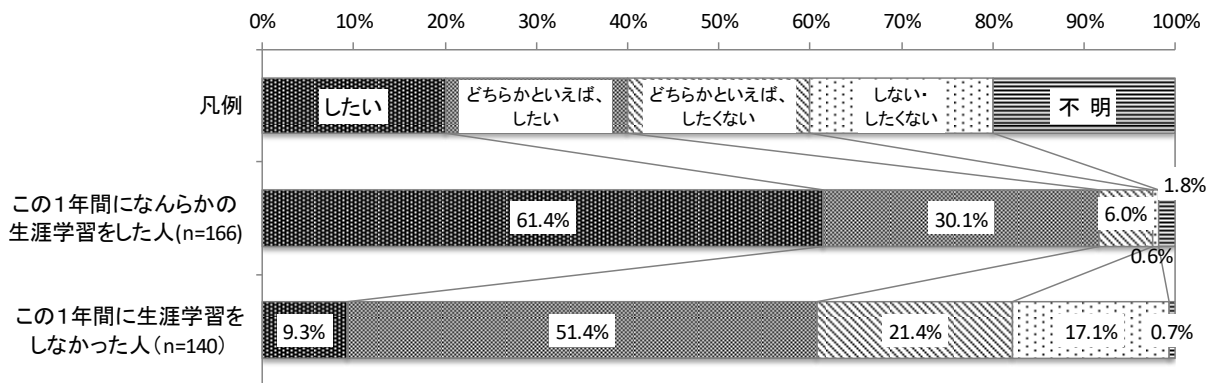
- 生涯学習にもっと参加する条件として「自分の興味に合致した講座や教室等が開催される」を挙げた市民が多く見られました。市民の主体的な活動を支援するために、市民のライフステージや学ぶ目的などに合わせた学習機会のさらなる充実が求められます。
- 市民の多様な学習ニーズに応えるため、また、生涯学習成果の社会的活用場の場として、さまざまな分野での達人バンクへの登録を推進します。また、学校支援者派遣制度により、小中学校と連携して地域の達人の掘り起しも必要です。
- 寺子屋事業は 10 年以上の継続により、現在は市内全小学校の空き教室を活用し、週 3 日実施されています。地域との連携で可能となっている事業ですが、指導人材のさらなる確保が課題となっています。

- 各地区とも特色のある行事を開催し、大人から子どもまで地域ぐるみで参加していますが、少子高齢化により参加人数は減少傾向にあります。地域のコミュニティを維持していくしくみづくりが求められています。
- 生涯学習関連施設の利用者の利便性を図るとともに、安全性・快適性を一層高めるため、施設整備を計画的に進める必要があります。
- 生涯学習をもっと行うための条件として「時間的余裕ができる」が最も多くなっています。ICTの活用などによる「いつでもどこでも学習ができる環境づくり」、さらに学習施設の整備などが必要です。
- 生涯学習情報の入手について、20代～30代では、市のホームページの拡充やSNS^{*}の活用など、インターネットを用いた情報提供への要望が強く見られます。ICTを活用し、積極的に情報提供していくことが求められます。

【生涯学習への参加の状況】

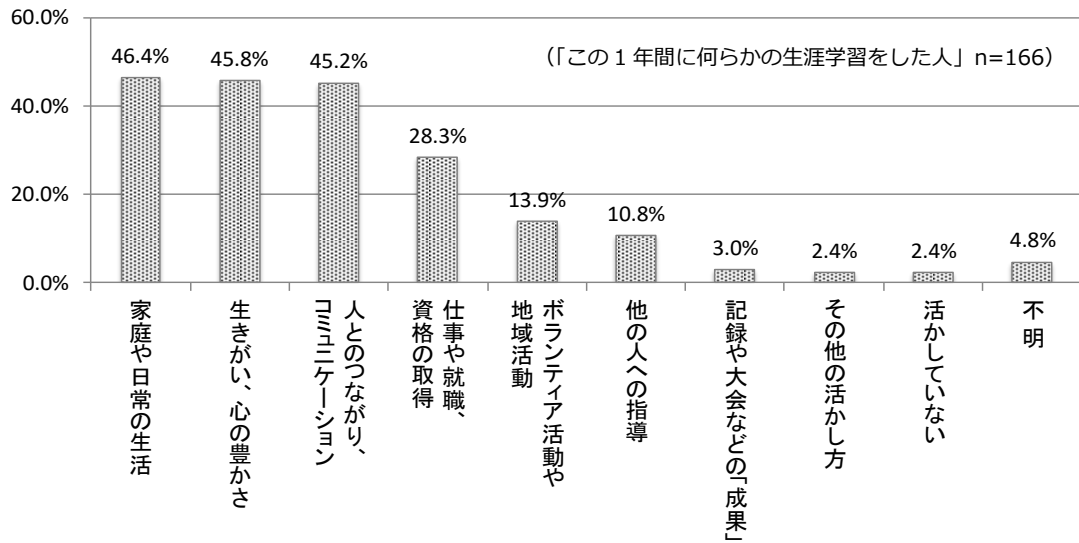


【生涯学習への今後の意向】

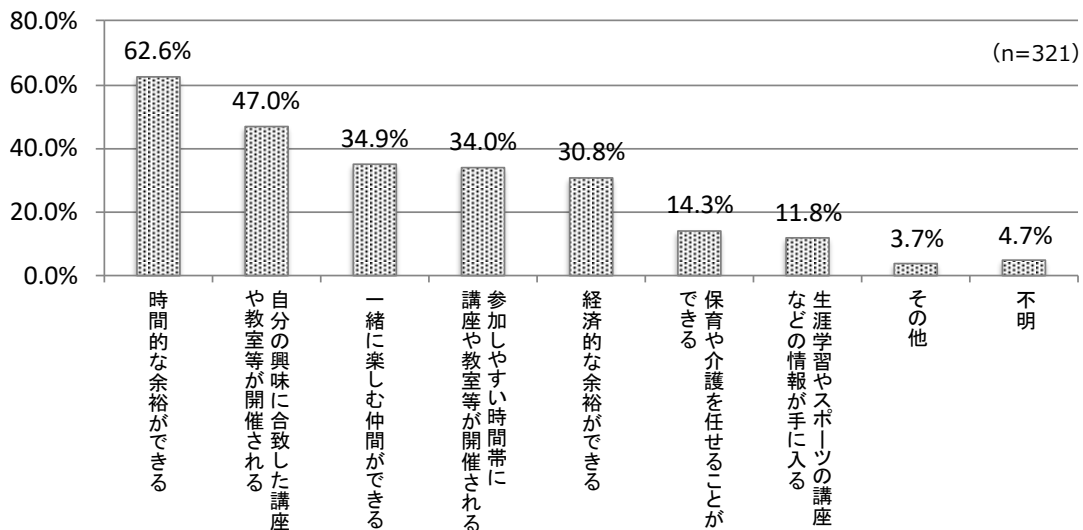


* グラフは「生涯学習に関する市民意識調査(平成29年)」結果より
 グラフの「n=」は基数となる回答数を表す

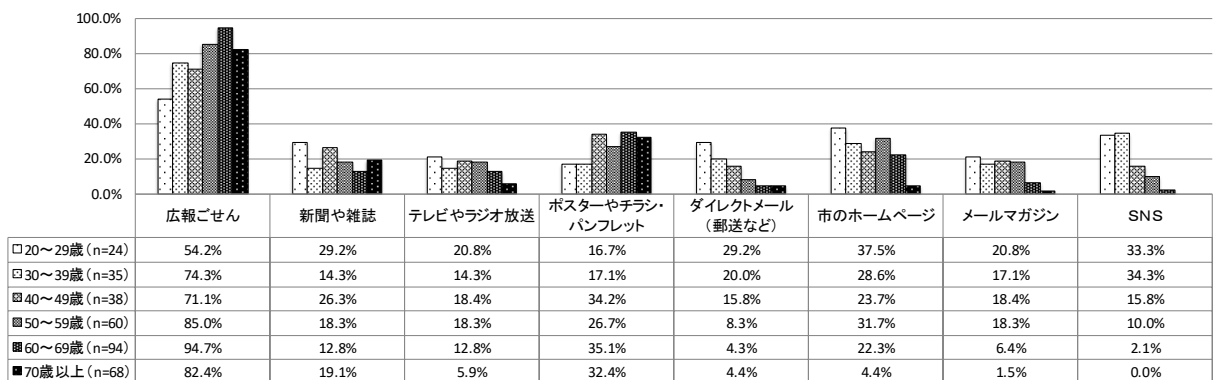
【生涯学習を通じて身につけた知識・技能や体験の活かし方】



【もっと生涯学習に参加しやすくなるための条件】



【充実してほしい情報入手手段】



* グラフは「生涯学習に関する市民意識調査 (平成 29 年)」結果より
 グラフの「n =」は基数となる回答数を表す

(2) 今後の取り組み

① 学習機会の充実

年齢や性別の違いにかかわらず、子どもから大人まで、障がいがある方、在住外国人等、すべての市民が、誰でも・いつでも気軽に学べるよう、さまざまな学習機会を提供します。また、市のホームページや Facebook[※]等の SNS による情報提供など、さまざまな世代に効果的に生涯学習情報を伝える方法を検討し、積極的に各種講座や講演会などの情報提供に努めます。

(具体的な取り組み)

- ◎ 公民館講座事業
- ◎ 市民大学講座事業
- ◎ 高齢者学級講座事業

② 民間指導者の育成・活用の推進

市民自らが自主講座等を開設することができるよう、指導者の育成と活用を推進します。そのため「ごせん生き生き楽習達人バンク」制度の充実をめざし、登録者のスキルアップや活動支援、指導者の掘り起こしなどを進め、また、達人バンクの利用拡大と登録者の増加を図るため、各種の情報提供手段により、周知に努めます。自主学習グループ相互の交流促進を図り、学習者同士のネットワーク化を支援します。

(具体的な取り組み)

- ◎ ごせん生き生き楽習達人バンク推進事業
- ◎ きなせや楽習大学事業
- ◎ 生涯学習フェスティバル事業

③ 子どもの居場所づくり

地域社会の中で、子どもたちが安全・安心に心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進します。

小学校区によっては近くに学童クラブ[※]がない地域もあるため、全小学校区で開設している寺子屋事業と連携し、希望する子どもたちの誰もが参加できるよう指導者の確保・育成に努めます。

また、子どもたちが自ら考え行動できる豊かな感性や社会性を養う学習機会の提供に努めます。

(具体的な取り組み)

- ◎ 寺子屋事業
- ◎ 生き生き通学合宿事業

④ 公民館活動の推進

地域に根ざした生涯学習を推進し、小学校などの施設を活用した公民館活動の充実を図るため、現代的なテーマや市民の興味に合致した学習内容の企画・立案を行い、気軽に参加できる魅力的な学習機会の提供に努めます。

各地区公民館がそれぞれの特色を活かした事業を積極的に実施できるよう、地域の居住者の年齢層などを踏まえた活動を進めます。また、館長・主事・運営委員を中心とした活動を支援することにより、地域独自の行事の継承と地域の活性化を推進し、地域コミュニティの維持と地域のつながりの確保に努めます。

(具体的な取り組み)

◎地区公民館イベント開催事業

⑤ 生涯学習関連施設の整備

市民の自主学習活動の拠点施設として常に安全・安心・快適に利用できるよう、生涯学習関連施設の計画的な改修を実施します。

また、多様化する市民のニーズに対応するため、「生涯学習と芸術文化の振興」と「観光と連動した産業振興」の機能を併せもった複合施設の建設に向けて関係各課と検討を進めます。

(具体的な取り組み)

◎複合施設建設推進事業



寺子屋事業



公民館講座事業～おやこ木工教室～

【成果指標 —2023年度のすがた—】

◎ごせん生き生き楽習達人バンクの登録者数

2016(平成28)年度 2023年度
127人 25団体 → 150人 30団体

◎全校児童に占める寺子屋参加児童の割合

2016(平成28)年度 2023年度
14.2% → 15.5%

2. 生涯スポーツの推進

基本方針

子どもから高齢者まで、多くの市民が健康や体力の保持増進に取り組み、生涯を通じて健康で活力に満ちた生活を送れるよう、いつでも、どこでも気軽に参加できるスポーツ・体力づくり活動の機会の提供や教室等の開催、施設環境の整備を進めていきます。

(1) 現状と課題

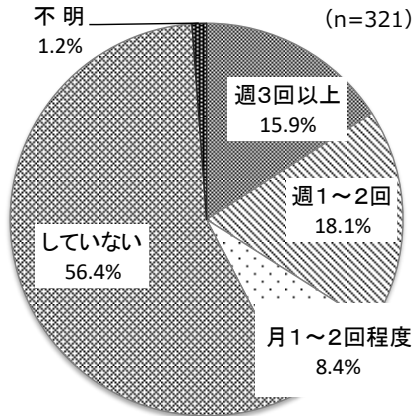
児童・生徒の運動する子としない子の二極化や成人の生活習慣病の増加、高齢化の進展などにより、「健康維持・増進」「介護予防」のための生涯スポーツに対する重要性が高まっています。そのため、体力づくり教室延べ参加者数は、2014（平成26）年度の8,947人から2016（平成28）年度には11,336人（総合型地域スポーツクラブ「ヴィガ」主催教室参加者数4,965人を含む）に増加しています。

また、市民意識調査の結果を見ると、現在「スポーツをしている人」は42.4%で、スポーツをする目的としては「健康や体力の維持・増進、ダイエット」が83.1%と最も高く、市民の健康意識の高まりを示しています。

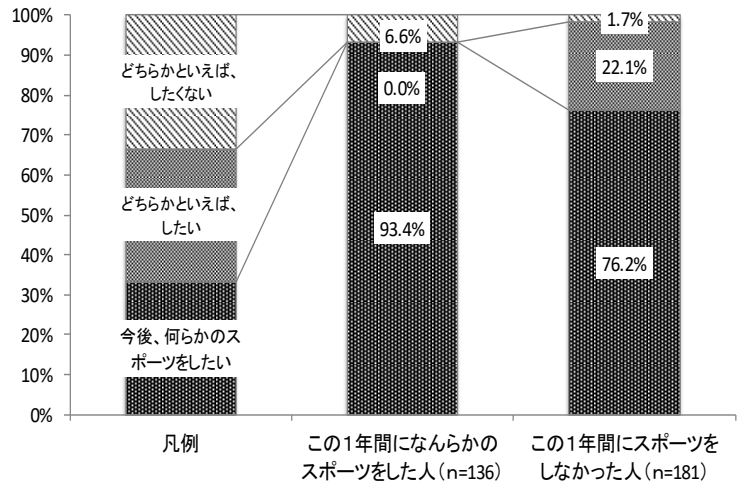
一方で、40代の4人に3人が定期的な運動を行っていないことがアンケートからわかっており、仕事や子育てで忙しい市民が気軽に参加できる機会提供が課題です。スポーツを行っていない市民のうち76.2%は今後何らかのスポーツをしてみたいと思っているため、このような市民のスポーツに対する意欲を、実際の活動につないでいくことが求められています。

- 子どもから高齢者まで、普段運動に関心がない人も運動への意識が高まるよう、参加したくなるような教室、イベントを企画することが必要です。
- 総合型地域スポーツクラブ「ヴィガ」と連携しながら、市民のニーズを的確に捉え、市民の生きがいづくりや健康増進に役立つ教室を提供することが必要です。また、こうした活動を多くの市民に知ってもらうことが重要です。
- 2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定し、スポーツへの関心が高まる中、スポーツ指導者や団体及びジュニア選手の育成・強化、支援を行うなど、競技スポーツ等の推進を図ることが必要です。
- スポーツイベント等を招致・開催し、よりハイレベルな試合等を間近に体験できる機会を提供するなど、「見るスポーツ」や「支えるスポーツ」などへの参加機会を増やしていくことも必要です。
- 既存のスポーツ施設では、老朽化等による維持管理経費の増大も課題になっています。利用者の安全性や利便性を考慮した、適正な環境の整備と施設の運営とが必要で

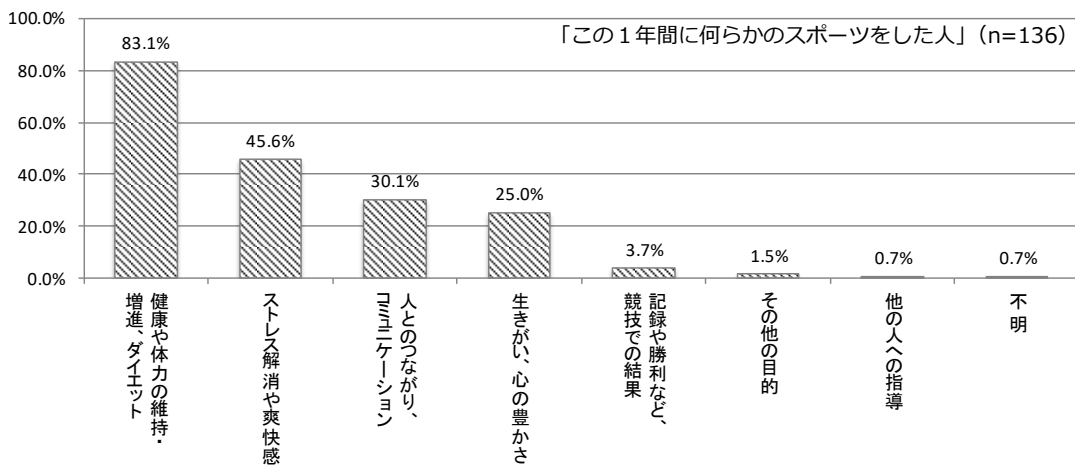
【定期的な運動の実施の有無と（行っている場合の）頻度】



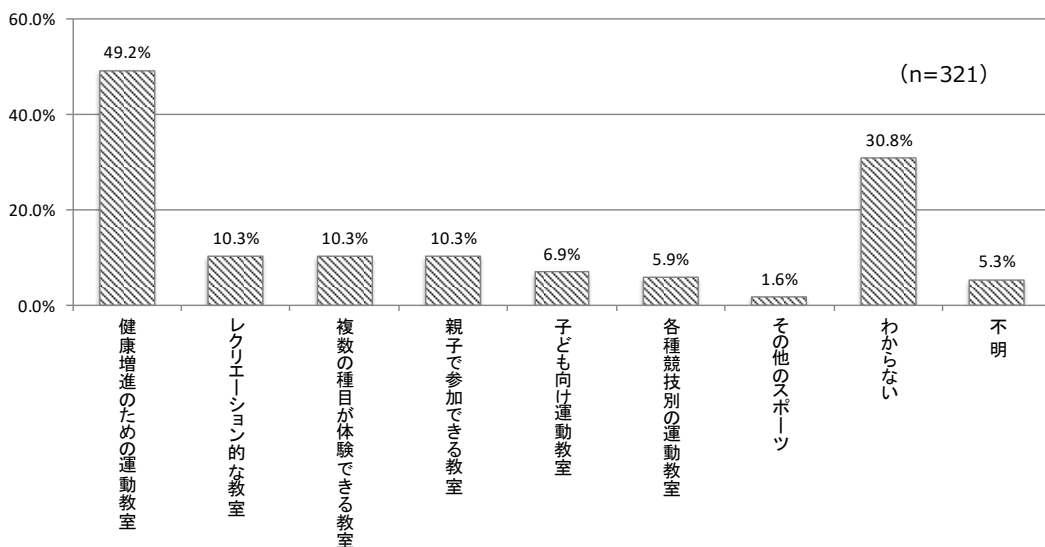
【スポーツへの今後の意向（再掲）】



【スポーツの目的】



【総合的地域スポーツクラブ「ヴィガ」に希望するスポーツ教室】



* グラフは「生涯学習に関する市民意識調査（平成 29 年）」結果より
 グラフの「n =」は基数となる回答数を表す

(2) 今後の取り組み

① 生涯スポーツ活動の推進

子どもから高齢者まで市民の健康維持・体力増進を図り、健康で活力ある生活を送るため、各種運動機会の提供や教室を開催します。

また、市民による主体的・自主的運営の総合型地域スポーツクラブ「ヴィガ」と連携し、年齢の違いや障がいのある・なしにかかわらず、多くの市民がスポーツ活動に参加できるよう、市民に運動の機会を提供します。

(具体的な取り組み)

- ◎健康増進・体力づくり事業
- ◎総合型地域スポーツクラブ事業

② 競技スポーツの振興

スポーツ活動への関心を高め、競技力の維持・向上を図るとともに、地域住民の交流促進など誰もが気軽に参加できる各種スポーツ大会を積極的に開催します。また、競技水準向上のため、ジュニア選手の育成強化に努めるとともに、全国・ブロック大会等の出場のための奨励費を支給するなどの支援を行います。さらに2020年東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプ誘致をめざします。

(具体的な取り組み)

- ◎各種大会への派遣奨励事業
- ◎ジュニア選手育成支援事業
- ◎スポーツ大会開催事業
- ◎スポーツ競技者育成事業
- ◎2020年東京オリンピック・パラリンピック事前キャンプ招致事業

③ スポーツ指導者及び団体等の育成強化の推進

スポーツ推進委員などの指導者へ研修を実施し、スポーツ指導者の資質の向上を図ります。また、体育協会等の団体及び社会教育関係団体などと連携を強化し、市民自らが主体的にスポーツを楽しむことができる環境を整備し、スポーツ人口の拡大を図ります。

(具体的な取り組み)

- ◎スポーツ推進委員育成事業
- ◎体育団体育成支援事業

④ スポーツイベント等の招致と開催

スポーツ団体等と連携してスポーツイベント等を招致することで、市外から多くの参加者を迎えるとともに、市民にスポーツ観戦機会を提供します。また、市外の学生等が行う部活動やサークル活動等の合宿を誘致し、交流人口の増加を図ります。既存施設では、各種の大会運営がスムーズに行えるよう点検・管理等に努め、さまざまな競技に対応できる用具の充実及び整備・点検を徹底します。

(具体的な取り組み)

- ◎合宿誘致促進事業
- ◎五泉ライド事業（順位、タイムを競わない自転車で長距離を走るイベント）

⑤ スポーツ等施設環境の整備

市民のさまざまなスポーツに対するニーズに対応し、常に安全・安心・快適に利用できるよう、スポーツ施設の計画的な改修や整備を実施し、施設環境の整備に努めます。

(具体的な取り組み)

- ◎体育施設管理運営事業
- ◎総合会館管理運営事業



健康増進・体力づくり事業
～健康ウォーク～



総合会館管理運営事業
～総合会館～

【成果指標 —2023年度のすがた—】

◎体力づくり教室延べ参加者数

2016（平成28）年度 **2023年度**
11,336人 → **12,000人**

◎体育施設等の延べ利用者数

2016（平成28）年度 **2023年度**
727,803人 → **780,000人**

3. 芸術文化活動の推進

基本方針

市民が自主的かつ創造的な芸術文化活動を行う中で、人々に感動や生きる喜びをもたらして人生を豊かにするまちをめざします。

市民自らが主体的に芸術文化活動を行えるよう、活動機会の充実に努め、芸術文化団体等との連携を図ります。

芸術文化活動を行う施設等の整備を進めるとともに、優れた芸術文化に触れる機会の充実に努めます。

(1) 現状と課題

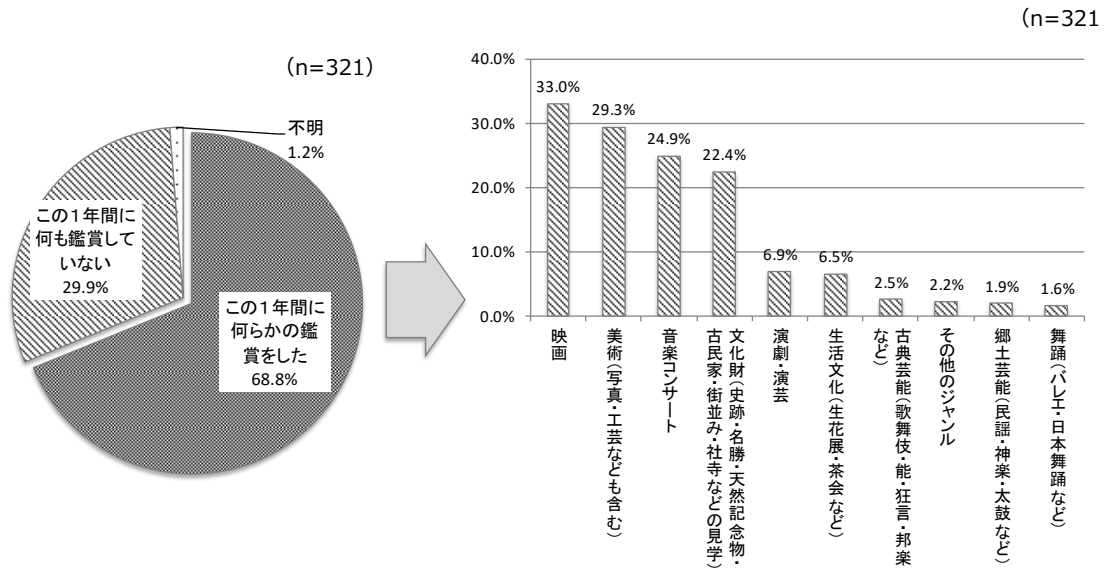
市民意識調査結果を見ると、市民の68.8%は、昨年1年間に音楽・演劇・美術・映画・郷土芸能・文化財等の芸術文化を鑑賞しています。最も多いのは映画で33.0%、ついで美術、音楽となっています。多くのジャンルで前回の調査より参加率は上昇しています。

自ら行う文化活動には市民の23.1%が参加しており、参加が多いのは生活文化や美術などとなっています。一方で、市展・文化展出品は減少傾向にあり、また、高齢化等により、指導者や芸術文化団体数の減少が指摘されています。時代のニーズに合わせた若者層への働きかけが必要です。

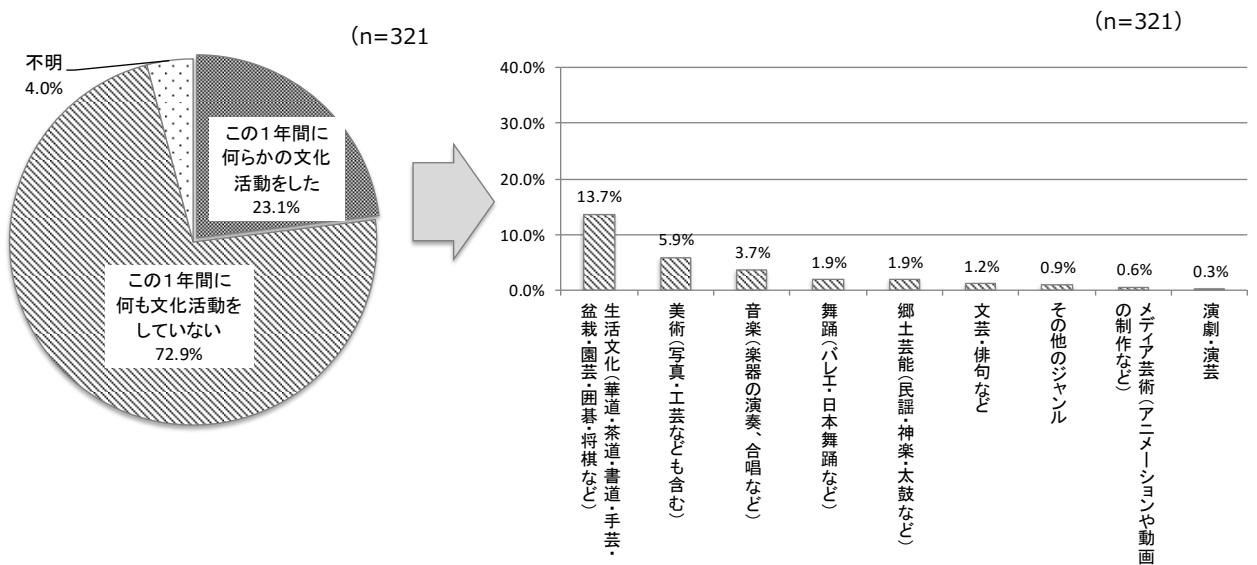
芸術文化は、人々に感動や生きる喜びをもたらす人生を豊かにします。そのため、市民の芸術文化活動への支援や活動に親しむ環境の充実に努められています。

- 芸術文化団体、サークル活動団体などと連携し、市民が主体的に活動できる機会を充実していくことが必要です。
- 芸術文化の振興を図るため、芸術文化団体、サークル活動を支える指導者等の人材の確保や育成が課題となっています。
- 芸術文化団体やサークル活動等の参加者の多世代化や、次代を担う若い世代の芸術文化活動への支援、新しい芸術文化ジャンルへの対応などが求められています。
- 市民の芸術文化に対するニーズに対応するため、文化施設の整備を計画的に進める必要があります。
- 出前コンサートや市展の巡回展など、身近なところで鑑賞できる工夫を行い、市民に感動や生きる喜びをもたらす優れた芸術文化の鑑賞機会を増やすことが必要です。
- 芸術文化がもつ力を、まちづくりや子どもたちの豊かな情緒育成など、多方面に活かしていくことが求められます。

【芸術文化の鑑賞の状況】



【自ら行う文化活動への参加の状況】



* グラフは「生涯学習に関する市民意識調査 (平成 29 年)」結果より
 グラフの「n =」は基数となる回答数を表す

(2) 今後の取り組み

① 市民の芸術文化活動の推進

美術教室や書道教室などの各種教室の開催や、市民の芸術文化活動の場である市美術展覧会や芸能祭、音楽祭など、芸術文化活動の学習の場や成果の発表機会の充実に努め、市民の主体的な活動の活性化を図ります。

市民が自主的に文化事業を行えるよう、芸術文化団体や「達人バンク」等と連携し、民間指導者の発掘や、育成をするため研修等を推進します。また、アニメーションや、コンピュータや電子機器を用いた音楽や映像制作など、新しい芸術ジャンルへの支援なども含めて自主的な文化活動を行う環境づくりを行います。

(具体的な取り組み)

- ◎市美術展覧会事業
- ◎音楽祭・芸能祭開催事業
- ◎ごせん生き生き楽習達人バンク
- ◎きなせや楽習大学事業

② 芸術文化団体の育成支援

市民自らが主体的に文化活動を行えるよう、利用しやすい施設運営に努め、団体や指導者の育成を図ります。

高齢化などによる団体数や構成員の減少を防ぐため、芸術文化活動の核となる文化協会の活動を支援し、また、連携・協力して指導者のレベル向上と育成を図ります。

(具体的な取り組み)

- ◎社会教育振興事業補助金

③ 文化施設の充実

市民の芸術文化活動の場として、施設の維持管理に努めるとともに、必要な改修を進めます。

また、芸術文化活動に対する市民ニーズに対応するため、拠点施設の建設を進めます。

(具体的な取り組み)

- ◎複合施設建設推進事業
- ◎文化施設維持・改修事業

④ 芸術文化の鑑賞機会の充実

市民の芸術文化に対する関心を高め、生涯を通じて多様な芸術文化に出会い、感動や喜びを実感できるような優れた音楽、美術、演劇などに触れる機会の充実に努めます。

また、鑑賞事業と組み合わせて参加型事業やレクチャーを行い、理解を深められるようにしたり、地域性を活かした事業なども検討し、芸術文化のもつ力をまちづくりへ活用します。

(具体的な取り組み)

- ◎ 展覧会開催事業
- ◎ 芸術・文化鑑賞事業



市美術展覧会事業～市展～



市美術展覧会事業～文化展～

【成果指標 —2023年度のすがた—】

◎ 文化事業入場者数

2016 (平成 28) 年度 **2023 年度**
8,022 人 → **13,000 人**

◎ 市展・文化展出品数

2016 (平成 28) 年度 **2023 年度**
560 点 → **650 点**

4. 図書に親しむ環境づくりの推進

基本方針

市民が、知的好奇心を満たし、生涯を通して読書を楽しむことができるまちをめざして、魅力的な図書館資料の収集・整備・保存に努めるとともに、図書館の調査研究機能の強化等の取り組みを行っていきます。

また、家庭、地域、学校など社会全体で、計画的に読書活動に親しむ環境づくりを推進します。

(1) 現状と課題

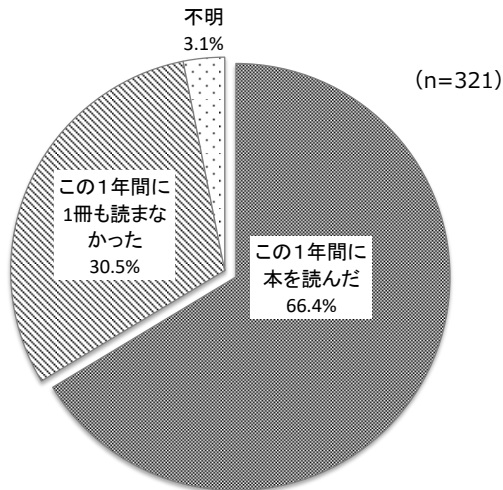
近年、全国的な傾向として、図書館は本を読む・貸し出すという役割に加えて、市民の調査・研究への支援、さらに地域活性化への取り組みを進めていく役割も期待されています。国の方針（文部科学省「図書館の設置および運営上の望ましい基準」平成24年）としても、情報サービスへの対応や、児童や青少年、乳幼児とその保護者、高齢者、障がい者、外国人、来館が困難な人など、多様な市民に向けたサービスが必要とされています。

市民意識調査の結果によると、1年間に1冊以上本を読んだ市民は66.4%で、全国を対象とする調査（毎日新聞社「2017年版読書世論調査」）では49%であり、かなり高い水準にあるといえます。また、1年間に図書館を1回以上利用した市民は30.2%で、全国平均と同程度の利用率と考えられます。加えて、個人の生活様式の変化により、長時間を図書館で過ごす利用者が増加傾向にあり、図書館の果たす役割はますます重要となってきました。

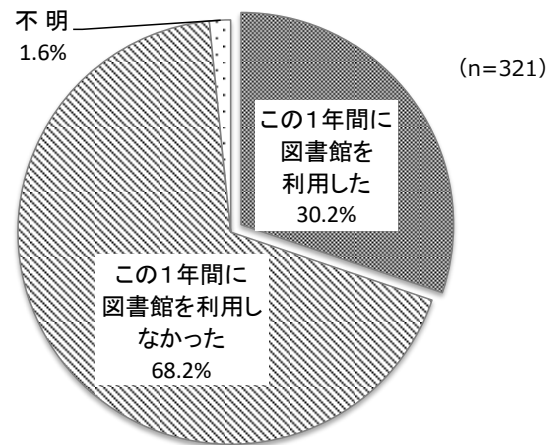
- 市民ニーズに対応した魅力のある蔵書整備や公共図書館のネットワークを活用した資料の提供などのサービスの充実を図る必要があります。
- 視聴覚資料の利用は増加しており、またその活用の一環として実施しているホールでの上映会が好評であること等を踏まえて、視聴覚資料の整備も求められます。
- 図書館資料を利用した調査・研究のための職員研修や参考図書の充実などを行うことが必要です。
- 小中学校への派遣司書事業が定着して、学校図書館の利用率が伸びる一方、市立図書館を訪れる子どもの利用者は減少傾向にあります。学校などとの連携を強化し、子どもたちが本を読みたくなるような働きかけを行うとともに、図書館の場としての魅力づくりについても検討していくことが求められます。
- 子どもたちの読書意欲向上を進めるため、読書ボランティアの育成・強化や家庭・地域・学校など社会全体で、計画的に読書活動に親しむ環境づくりが求められています。

- 誰でも使いやすいようにスペースを整え、講座の実施等で市民の知的好奇心を満たしながら、余暇利用が図れる豊かな空間としての整備が求められています。

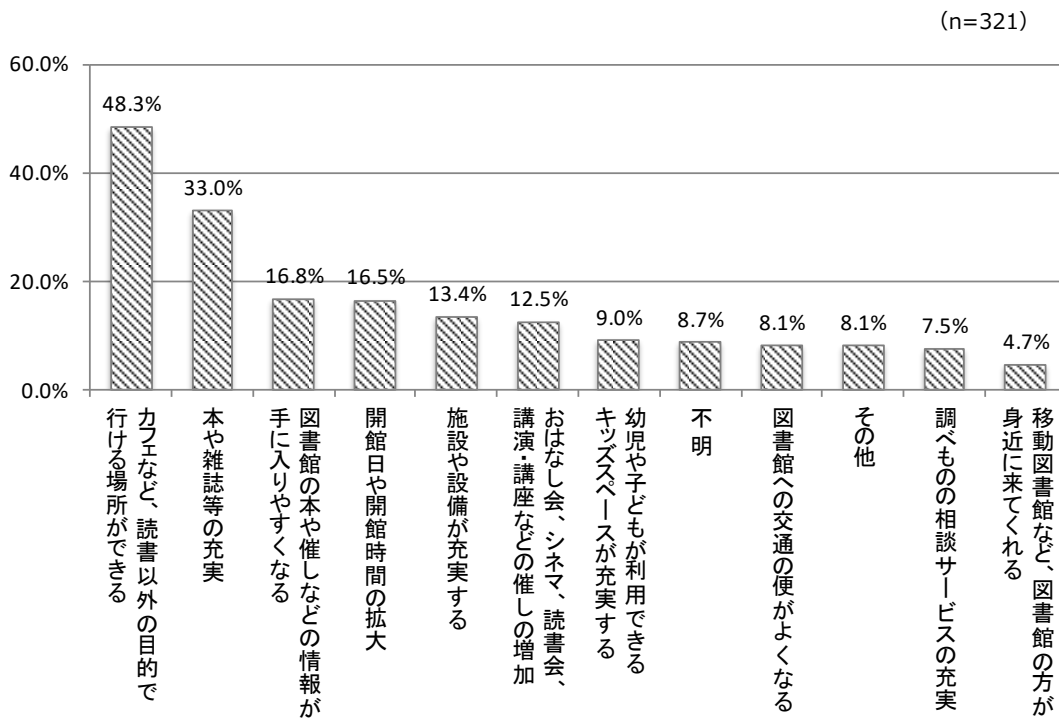
【市民の読書状況】



【市民の市立図書館利用状況】



【もっと図書館を利用するための条件】



* グラフは「生涯学習に関する市民意識調査（平成 29 年）」結果より
 グラフの「n =」は基数となる回答数を表す

(2) 今後の取り組み

① 図書館資料の収集・保存と提供の充実

市民意識の多様化に対応した資料整備が求められていることから、アンケート調査などによる利用者の意向を反映した蔵書の整備を進めます。また、予約・リクエストサービスに迅速に対応するため、全国の公共図書館とのネットワークの活用を図るとともに、引き続き郷土・行政資料の収集・保存活動の取り組みを強化します。新しい時代に対応した図書館運営を図ります。

(具体的な取り組み)

- ◎蔵書整備事業
- ◎雑誌スポンサー事業
- ◎図書館シネマ事業

② 調査研究機能の強化

調査・研究などに対して、図書館資料等を活用してサポートする機能(レファレンス・サービス)などを強化するため、職員研修を進めながら調査研究機能及び市民の課題解決機能の向上を図ります。

また、サービスの利用促進を図るため、市民へのPR活動に努めます。

(具体的な取り組み)

- ◎図書館職員研修事業

③ 子ども読書活動の推進

未来を生きる子どもたちのための、心の糧になるような本の選書を心がけ、成長過程や発達段階に応じた本の橋渡しができるように努めます。

また、読書ボランティアの育成、強化を図りながら、絵本の読み聞かせやおはなし会などの機会を充実させるとともに、家庭や学校図書館との連携を深めます。幼児・児童・生徒がどこにいても「読書」に関心が向くような環境づくりを進めます。

(具体的な取り組み)

- ◎おはなし会事業
- ◎出前おはなし会事業
- ◎絵本の読み聞かせ講座開催事業
- ◎学校司書派遣事業

④ 読書しやすい環境の整備

図書館内の表示を、わかりやすく、利用しやすいものに工夫するなどの配慮に努めます。乳幼児、高齢者、障がい者などに向けてのサービスを充実し、利用者の声を反映させ、余暇利用が図れる豊かな空間として、整備を進めます。

(具体的な取り組み)

- ◎ 図書貸出事業の一環として施設環境整備を実施



おはなし会事業
～おはなし会スペシャル～



絵本の読み聞かせ講座開催事業
～読書ボランティア中級講座～

【成果指標 —2023 年度のすがた—】

- ◎ 市民一人当たり図書等貸出点数
2016 (平成 28) 年度 3.9 点 → 2023 年度 4.5 点
- ◎ 図書利用カード登録率
2016 (平成 28) 年度 39.3% → 2023 年度 40%
- ◎ 18 歳までの図書利用カード登録率
2016 (平成 28) 年度 44.3% → 2023 年度 50%

5. 文化財の保護と利活用

基本方針

郷土の自然や歴史、文化財は後世に伝え残さなければならない地域の財産であることへの理解を深め、市民がそれらを誇りにするまちをめざします。

地域に残る年中行事や伝統芸能を後世に伝えるため、後継者の育成や保存団体の支援に努めます。

また、文化財等の公開、展示施設の充実と情報発信に努めます。

(1) 現状と課題

文化財に対する市民の関心は高く、文化財パンフレットを活用した講座には多数の市民からの申し込みがあります。郷土の自然や歴史、文化財は地域の貴重な財産であり、市民の誇りです。市民一人ひとりがより一層の関心をもち、理解を深めていくことが必要です。

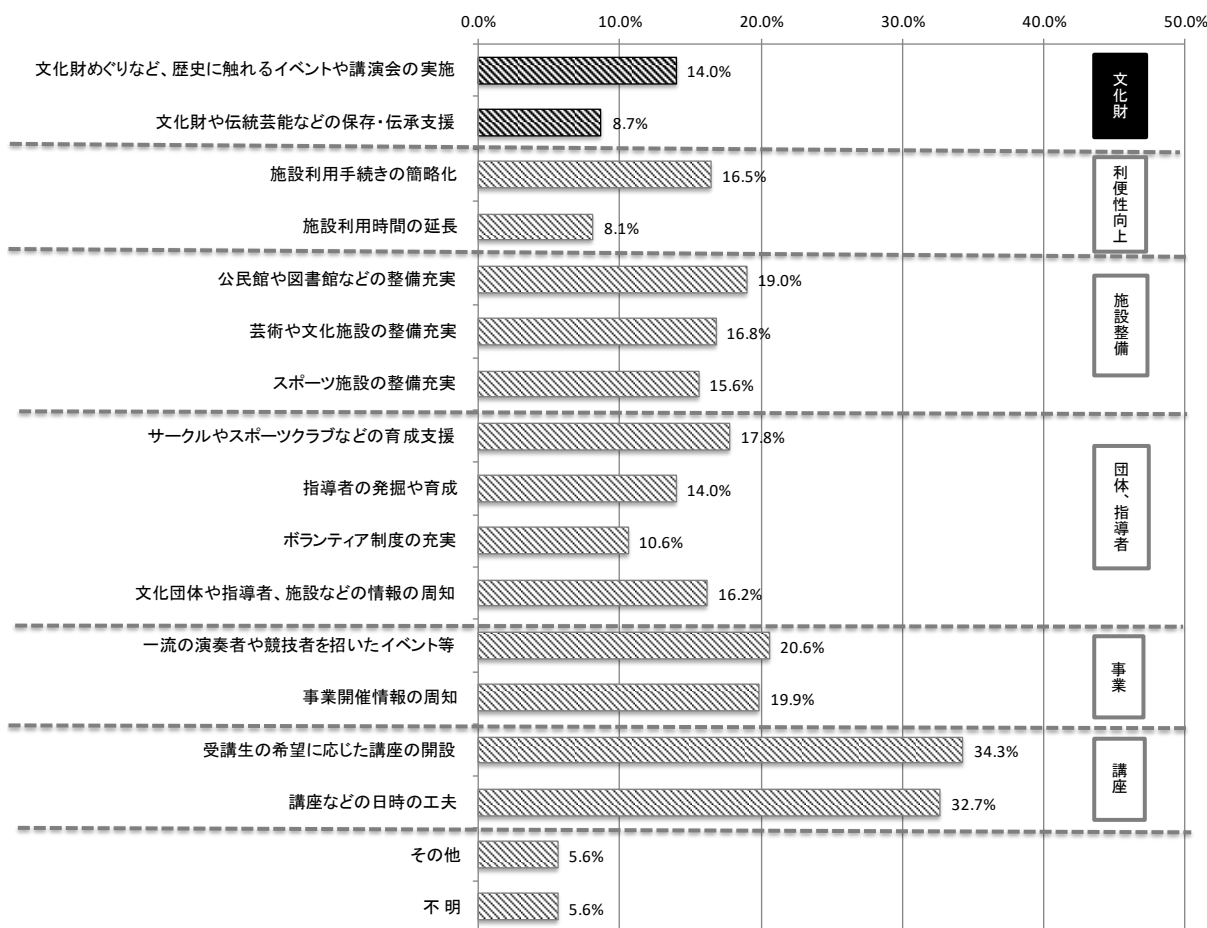
一方で、地域での生活習慣の変化や世代間交流が希薄になり、年中行事や伝統芸能を次の世代に引き継ぐことが難しくなっています。これまで大切に保存されてきた地域文化の灯を消してしまわないよう、継承への支援も求められています。

- 市内に残る文化財の適正な保護・保存に努めるとともに、指定文化財になり得るものについての情報収集が必要です。
- 高齢化により、伝統芸能の保存団体では人数の減少が目立っており、また、道具や衣装など伝統芸能を支える技術や技能も失われる可能性があります。次の世代への継承を支援するためには、助成制度など積極的な働きかけが必要です。また、少子化により次の世代が確保できない地域では、活動の広域化など含めた幅広い視野での保存継承のしくみづくりが求められます。
- 市内では大規模開発が数年続く予定で、埋蔵文化財調査体制の充実が求められています。また、市内にある約 400 か所の周知遺跡(県調査により、遺物・遺構等が確認された場所)については、開発計画を事前に把握し、関係機関との協議・調整を図りながら、保護していくことが必要です。
- 発掘調査により出土した遺物や記録資料を小中学校の総合学習で使用することは、子どもたちに埋蔵文化財や郷土の歴史を知る機会を提供するものです。しかし、昨今ではそういった学習機会が減少傾向にあります。学校と連携した子どもたちへの教育活動が必要です。

- 市民意識調査を見ると、文化財めぐりなどのイベントに対する興味関心は高めですが、保存・伝承支援に対する意識は必ずしも高いとは言えません。また、郷土資料館の特別展等の入館者数も低調です。郷土の歴史や文化財についての理解を深めるため、更なる活用や情報発信が求められます。
- 現在は市のホームページや文化財パンフレットなどを中心に情報発信していますが、より多くの市民に発信するために、SNSなどの活用が求められています。
- 伝統芸能などを含めて映像等による記録化に努め、貴重な文化資源の保護及び継承を図ります。デジタル技術やインターネットなど、新しい技術の活用が必要です。

【生涯学習を発展させるために、市が注力すべきこと】

(n=321)



* グラフは「生涯学習に関する市民意識調査（平成 29 年）」結果より
 グラフの「n =」は基数となる回答数を表す

(2) 今後の取り組み

① 指定文化財等の保存と利活用

市内に残る貴重な文化財をより良い状態で保存し、所有者等の協力を得ながら公開に努めます。

また、文化財に対する市民の理解を深めるための学習機会の充実に努めます。

地域の伝統行事や芸能を後世に継承していくため、保存団体や後継者の支援に努めます。

(具体的な取り組み)

- ◎ 歴史資料所在確認調査事業
- ◎ 歴史文化財講座事業
- ◎ 文化財維持管理等支援事業
- ◎ 文化財等の公開・活用事業

② 埋蔵文化財の保存と利活用

埋蔵文化財については、必要に応じて発掘調査を実施し、記録保存に努めます。大規模開発については、開発事業者と連絡を密にして、遺跡の有無を確認する調査を進めます。

また、発掘調査により出土した遺物や記録資料を郷土資料館で展示することにより、郷土の歴史を知る機会の提供に努めます。

(具体的な取り組み)

- ◎ 発掘調査事業

③ 文化財展示施設の充実

郷土資料館を活用した文化財等の公開展示のさらなる充実に努めます。郷土史研究者や文化財所有者の協力を得ながら魅力ある特別展や連動した講演会などを開催し、市民の関心と興味を特別展に誘導します。また、郷土の歴史を年代的に展示するなど展示方法も工夫し、郷土の歴史や文化財を知る機会の充実に努めます。郷土の歴史理解を促すため、学校連携を推進し、未来の五泉市を担う子どもたちへの働きかけを強化します。

(具体的な取り組み)

- ◎ 郷土資料館運営管理事業

④ 情報発信の充実

デジタル技術を活用して文化財や伝統行事等のアーカイブ[※]化を行うとともに、インターネットなどを通じて研究活動などへの利活用を容易にし、地域資源としての活用を促します。

郷土の自然、歴史、文化財を広く市民に周知し関心をもってもらうために、また、郷土を愛する心を育むために、文化財等を紹介したパンフレットを整備するとともに、市のホームページに加えて、Facebook などの SNS 等を活用して若い世代への周知を図ります。

(具体的な取り組み)

- ◎文化財等説明看板整備事業
- ◎文化財パンフレット活用事業



文化財パンフレット活用事業
～文化財めぐり～

【成果指標 —2023 年度のすがた—】

◎指定文化財の件数

2016 (平成 28) 年度	2023 年度
60 件	→ 62 件

6. 青少年を地域ぐるみで育む環境づくり

基本方針

家庭や学校、関係団体などが地域ぐるみで青少年の健全育成に取り組み、青少年の非行や問題行動の防止に努め、次代を担う青少年たちが、心身ともにたくましく成長することをめざします。

教育の原点である、家庭の教育力向上を図り、基本的な生活習慣(しつけ)、親子のふれあい増進、保護者との連携、相談体制の充実を図ります。

また、大人と子どもがともに学ぶ体制と環境を整備し、「子どもを地域ぐるみで育む」取り組みを推進します。

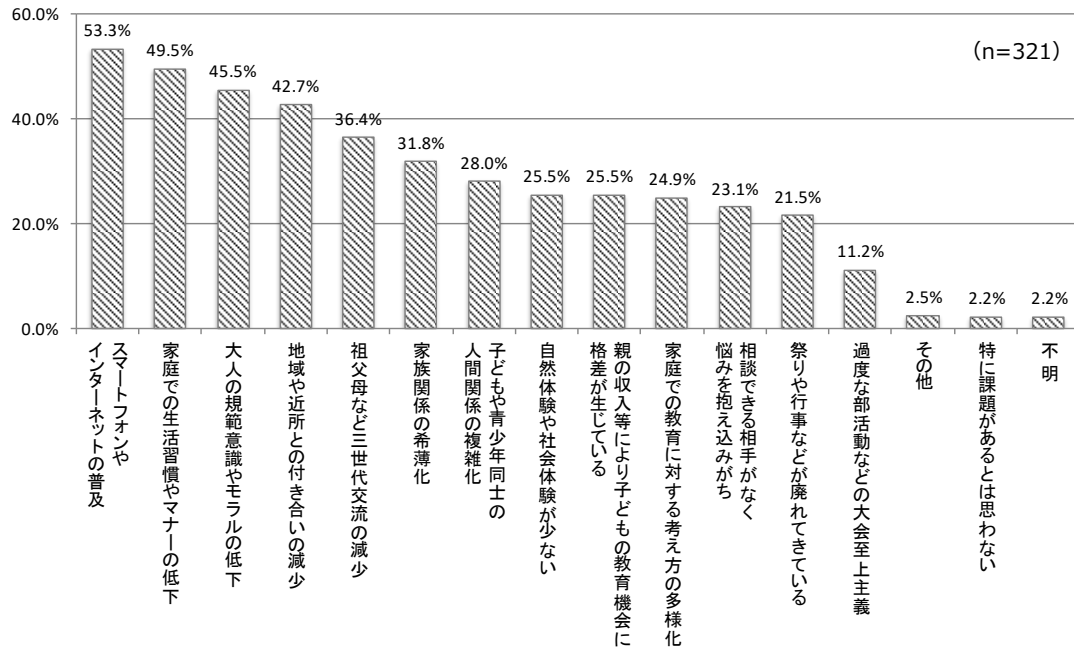
(1) 現状と課題

少子化や核家族化による家庭や地域社会での人間関係の希薄化などを背景に、子どもの成長過程における自然・生活・社会体験など、生きるための経験不足が問題となっています。また、通信技術の発展や、SNSの普及等によって青少年のインターネット利用を取り巻く環境やリスクが大きく変化しており、犯罪被害などのトラブルから青少年を守るため、家庭や学校、地域社会が一体となり青少年の健全育成に取り組むことが必要です。

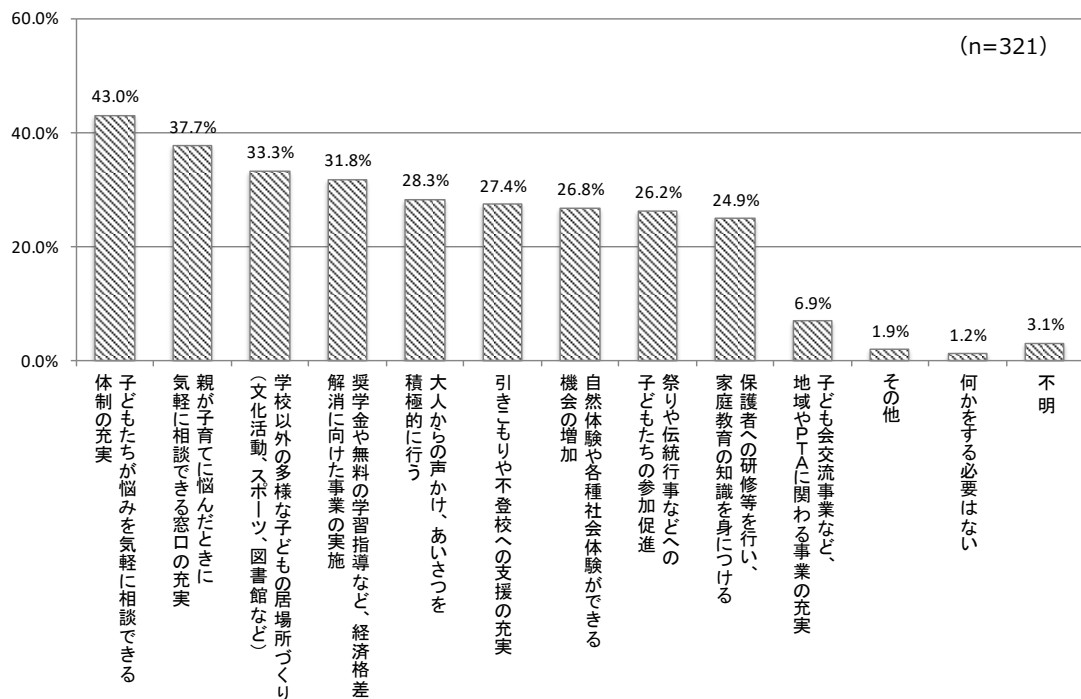
- 家庭における生活習慣・リズムの乱れが問題となっており、親が子どもを育てるための意義や責任を理解し、家庭教育について必要な知識を得られる機会や体験を充実させることが必要です。
- 治安や社会環境の多様化などにより、各家庭だけでは対処できない問題が増えているため、関係団体との連携強化が必要です。
- 青少年の非行防止や健全育成のため、定期的な巡回や見守りが必要です。また、悩みをもつ青少年に対する相談体制の充実を図るため、関係機関との連携による支援が必要です。
- 自然体験や異世代との交流経験が不足しており、地域の教育力を活かした取り組みが必要です。
- 市内の幼稚園、保育園、小中学校において家庭教育学級を開設し、また青少年健全育成団体と連携し、年1回合同で研修会を行っています。今後は、家庭教育学級のメニューの整理や保護者が参加しやすい研修会の実施など、時代に即した事業としていくことが求められています。
- スマートフォンやインターネットの普及により、子どもや青少年の間で多様な課題が生じています。また、格差の拡大など社会環境の変化もあり、今後は、支援を必要とする家庭が増えてくる可能性が指摘されています。これらの新しい

状況に対応するために、地域の状況を分析しながらスピード感と柔軟性をもって家庭や子どもを支援できる体制を整えていくことが必要です。

【子どもや青少年を取り巻く社会の課題点】



【子どもや青少年の健全育成のために整えるべき事業や環境】



* グラフは「生涯学習に関する市民意識調査（平成 29 年）」結果より
 グラフの「n =」は基数となる回答数を表す

(2) 今後の取り組み

① 家庭の教育力向上の支援

家庭教育学級を開設し、家庭での生活習慣の確立や基本的なしつけの実践を図ることにより、家庭の教育力の向上をめざします。

また、合同研修会の開催により、子育てにおける情報交換、仲間づくりなど、保護者同士が交流する機会を設け、望ましい親子関係が育まれるよう支援します。

家庭教育学級のメニューの整理・検討や、父親も含めて多くの保護者が参加しやすい研修の開催方法を見直しするとともに、情報提供の充実を図ります。

(具体的な取り組み)

- ◎家庭教育学級事業
- ◎家庭教育学級合同研修会事業

② 青少年健全育成を推進する体制の強化・連携

青少年健全育成を推進するため、推進母体である青少年健全育成市民会議の組織強化・活動を支援し、関係機関・団体とネットワークを構築し、情報の共有を図ります。同時に、家庭教育学級とも連携して市民全体での青少年育成を推進していきます。

また、各地区の青少年健全育成協議会については、実態に対応した活動ができるよう支援し、「地域の子どもは、地域で守る」という意識の定着化を進めます。

新潟県警察の「ひかるくん・ひかりちゃん安心メール[※]」や五泉市教育委員会配信の「不審者情報安心メール」への登録を呼びかけ、速やかに携帯電話やパソコンに不審者情報等を配信します。

(具体的な取り組み)

- ◎青少年健全育成市民会議組織強化支援事業
- ◎ネットワーク会議事業

③ 街頭指導と相談体制の充実

家庭、学校、地域や青少年指導員、ボランティアによる子ども守り隊などの連携を強化し、街頭指導の指導技術を向上させ、非行や問題行動の防止に努めます。

悩みを抱えている青少年・保護者に対して相談員が相談活動を行うとともに、関係機関（学校等）と連携し、適切な援助に努めます。また、広報活動の充実により青少年育成センターの活動を一層周知するとともに、より多くの悩みをもつ青少年や保護者に気軽に相談してもらえる体制づくりを行います。

(具体的な取り組み)

- ◎青少年指導員等研修事業
- ◎街頭指導員事業

- ◎相談・啓発事業
- ◎子ども・若者支援事業

④ 地域での活動機会と活動の場の充実

青少年教育施設の整備充実を図り、自然体験や異世代と交流する機会を充実するとともに、子どもの自立性や社会性、スマートフォンやインターネット等の正しい活用方法、コミュニケーション能力の向上に努め、子どもたちの生きる力を育みます。

また、地域子ども会の交流会を実施し、人材育成及び地域活動の活性化を図ります。

(具体的な取り組み)

- ◎地域子ども会交流事業
- ◎青少年交流事業
- ◎生き生き通学合宿事業
- ◎青少年教育施設の改修事業



生き生き通学合宿事業



地域子ども会交流事業～夏のつどい～

【成果指標 —2023年度のすがた—】

- ◎家庭教育学級参加者数
2016（平成28）年度 **2023年度**
11,214人 → **12,000人**
- ◎青少年指導員の街頭指導巡視計画達成率
2016（平成28）年度 **2023年度**
46.6% → **90.0%**

第5章 生涯学習の推進に向けて

五泉市の生涯学習推進にあたっては、これまで述べてきたような施策展開に加えて、庁内の各部署が行なっている下記のような関連事業とも連携していくことで、全庁的な生涯学習への気運を醸成するとともに、事業に多様性を持たせ、相乗効果があがるようにしていきます。

また、施策の具体的な展開にあたっては、庁内の各部署をはじめとして、市民・民間事業者・NPO 法人・ボランティア、生涯学習施設などと課題の抽出や改善などについて意見交換し、連携できる体制づくりを検討していきます。

【五泉市の各部署による関連事業一覧】

事業名	事業内容	担当課
総合学習	地域と連携して、地域の文化・歴史や産業をテーマに学習することで、ふるさとに誇りを持ち、地域社会に貢献できる人材の育成をめざす。	学校教育課
「泥かぶら」鑑賞	文部科学大臣奨励受賞作品である「泥かぶら」公演を、市内の中学校1年生が鑑賞することにより、人権意識の啓発及び中1ギャップの防止を図る。	
チャレンジ英会話合宿	中学生を対象に、チャレンジランド杉川で、1泊2日の英会話合宿を実施する。	
市民給食試食会 郷土料理講習会	市民それぞれが食について考えることで、生涯にわたって健康で心豊かな生活が送れるように、食育を推進する。	
Summer English 教室 Spring up! English 教室	知っていると役に立つ簡単な英語の表現を楽しみながら学ぶ。	
防災訓練事業 防災関係業務	地震や風水害などさまざまな災害に対応できるよう、防災に対する意識の啓発と知識の普及を図るため、広報活動や防災訓練を実施。また、防災の取り組みや自主防災組織づくりの支援について出前講座を実施。	総務課
市民の国際感覚の育成事業	ホームステイの実施や身近な外国人との交流などの活動に取り組む団体を支援し、相互理解と親交を深めながら、国際感覚豊かな市民を育成する。	
モンゴル交流促進事業	モンゴル国との交流を推進することにより、市民の国際感覚を高め国際社会で活躍できる人材を育成する。また、モンゴル国を相手国として2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催機運を高めるためのホストタウン事業を実施する。	

事業名	事業内容	担当課
人権啓発講演会	市民一人ひとりの人権尊重意識を高めるため、関係機関と連携して講演会等を開催し、人権啓発活動を推進する。	企画政策課
男女共同参画基礎研修会	男女共同参画の考え方について理解を深めるため、研修会を開催し、市民一人ひとりの男女共同参画に対する意識啓発を推進する。	
元気出せごせん 若者ワークショップ事業	地域の再発見、地域の魅力などをテーマとしたワークショップや実践学習などを多世代間で実施することにより、地域づくりや地域の活性化、交流拡大を図る。	
まちづくり講演会	市民のまちづくり活動のきっかけづくりとして、元気なまちづくりや地域活動について考える講演会を開催する。	
交通安全教室	市内の小学校、保育園、お茶の間サロン等で交通安全教室を開催して、交通安全意識の啓発を行い、事故防止を図る。	環境保全課
ごみ研修会	ごみの再資源化（リサイクル）を推進するため、啓発活動を実施し分別収集の徹底を図る。また、公衆衛生協会と連携して、お茶の間サロンや町内会などで研修会を開催し、取り組み強化に努める。	
早出川クリーン活動	公衆衛生協会と連携して早出川太川橋下で、一般参加者と清掃活動を実施する。	
健康推進委員会講演会 健康教室 プラス 10 きなせやエクササイズ講習会	各地域において健康づくり事業を実施する。運動による健康づくりを推進するため、プラス 10 きなせやエクササイズ（身体活動量を今より 10 分増やすオリジナル健康体操）の普及強化やウォーキングロードマップの活用を図る。	健康福祉課
メンタルヘルス研修会 ゲートキーパースキル研修会 精神保健福祉フォーラム	こころの健康づくりを推進するため、市民向けの各種研修会や支援者講習を開催する他、広報等による啓発普及を図る。また、こころの健康相談会やワンストップ相談会を開催。	
手話奉仕員養成講座	聴覚障がい者の社会生活上の意思伝達を支援する手話奉仕員を養成し、手話奉仕員を派遣するコミュニケーション支援事業を実施する。	
健康教室出前講座	働いている方が、健康でより充実した毎日を送るため「こころとからだの健康づくり」を応援する出前講座を実施する。	
親子で夏休み料理教室	夏休みに親子で参加できる、簡単でおいしい料理づくりを食生活改善推進委員から学ぶ料理教室を開催。	
赤十字救急員養成講習会	ケガ人や病人を救助するための正しい知識、技術を学ぶ。3日間受講し、試験に合格すると救急員の資格が取得できる。	

事業名	事業内容	担当課
お茶の間サロン	高齢者がいきいきと活力を持って生活できるように、地域の集会所や町内会館等を会場にして実施。達人バンクや e-スポーツクラブの他、各種団体及び関係各課の協力により講師を派遣いただき、介護予防の教室を開催する。	高齢福祉課
認知症サポーター養成講座	認知症を正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守る応援者である「認知症サポーター」を養成する。	
介護予防教室 転倒予防教室 その他各種介護予防教室	在宅介護支援センター等により、各種教室を実施し、介護予防の推進を図るとともに身近な相談窓口として高齢者やその家族への相談支援を行う。	
男の料理教室	中高年の男性で、家事の経験が少ない人や、ヘルシーでおいしい料理作りに興味がある人を対象に料理教室を開催する。	
子育て講演会	親の関わり方が子どもの心身に及ぼす影響を学び、よりよい関わり方を習得することで、安定した親子関係の構築を図る。また、地域全体で子育てに悩んでいる家庭を支援する取り組みについて考え、子ども虐待を予防する。	こども課
マタニティセミナー	妊娠、出産、育児に関する知識を深め、安心して妊娠期を過ごせるようにするとともに、妊婦同士の交流・仲間づくりの場とする。	
のびのび子育てセミナー	生後2か月児と保護者を対象に身体計測やベビーマッサージ、座談会などにより、育児不安の軽減を図るとともに母親同士の交流・仲間づくりの場とする。	
離乳食講習会	離乳食の作り方やコツを参加者にアドバイスする。参加者は講習を受けることで離乳食の悩みや不安を解消でき、食の大切さを改めて感じることができる。	
料理講習会	農家のお母さん方が中心となり、地元食材の素晴らしさをPRするためさまざまな年代を対象に料理講習会を開催する。	農林課
消費者トラブル啓発事業	消費者トラブルを未然に防ぐため、学校や町内会、老人クラブ、各種サークルなどに出向いて、悪質商法の事例や対処法などについて出前講座を実施する。	商工観光課
普通救命講習会	もしもの時のための救命技術として、心肺蘇生とAEDの使用法についての講習会を開催する。	消防本部



付属資料



「生涯学習に関する市民意識調査」(集計結果)

実施期間 : 平成 29 年 7～8 月
 種 別 : 対 象 : 市内在住者から無作為抽出 (20 歳以上)
 送 付 数 : 1,000 人 有効回収数 : 321 人

*調査結果の見方

- ・集計は小数点第 2 位以下を四捨五入しているため、数値の合計が 100%にならない場合がある。
- ・回答の比率 (%) は、その質問の回答者数を基数として算出しているため、複数回答の設問はすべての比率を合計すると 100%を超える場合がある。
- ・基数となる回答数は、n として表示した。
- ・性別に対し未回答があるため「男性」と「女性」を足しても「全体」の数にはならない。

■ あなたご自身についておうかがいします

(1) 性別

1. 男性 2. 女性

	男性	女性
全体(n=321)	40.2%	57.9%

(2) 年齢

1. 20～29 歳 2. 30～39 歳 3. 40～49 歳
 4. 50～59 歳 5. 60～69 歳 6. 70 歳以上

	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70 歳以上
全体(n=321)	7.5%	10.9%	11.8%	18.7%	29.3%	21.2%
男性(n=129)	10.9%	10.9%	12.4%	20.2%	27.1%	18.6%
女性(n=186)	5.4%	11.3%	11.8%	18.3%	31.2%	22.0%

(3) お住まいの地区

(五泉地区)

1. 五泉地区 2. 川東地区 3. 橋田地区 4. 巢本地区
 (村松地区)
 5. 村松地区 6. 大蒲原地区 7. 十全地区 8. 川内地区 9. 菅名地区

	五泉地区	川東地区	橋田地区	巢本地区	村松地区	大蒲原地区	十全地区	川内地区	菅名地区
全体(n=321)	48.6%	9.7%	5.9%	3.7%	18.1%	2.8%	3.7%	1.6%	5.0%
男性(n=129)	47.3%	10.1%	10.1%	3.1%	17.8%	3.1%	2.3%	2.3%	3.1%
女性(n=186)	50.5%	9.7%	3.2%	3.8%	18.3%	2.7%	4.8%	0.5%	6.5%

(4) 職業

1. 農林業 2. 自営業 3. 会社または団体の役員
 4. 会社員または団体職員 5. 国または地方公務員
 6. 派遣社員、パート、アルバイト 7. 家事従事者
 8. 学生 9. 無職

	1. 農林業	2. 自営業	3. 会社または団体の役員	4. 会社員または団体職員	5. 国または地方公務員	6. 派遣社員、パート、アルバイト	7. 家事従事者	8. 学生	9. 無職
全体(n=321)	4.0%	7.8%	4.4%	22.1%	4.7%	18.1%	9.3%	1.9%	27.1%
男性(n=129)	6.2%	9.3%	10.1%	31.0%	6.2%	7.8%	0.0%	3.9%	26.4%
女性(n=186)	2.7%	7.0%	0.5%	16.7%	3.8%	25.3%	16.1%	0.5%	26.9%

■ 生涯学習についておうかがいします

問1

「生涯学習」とは、「わたしたち一人一人が生涯にわたり、自らすすんで行う学習活動で、学校教育や公民館の講座等のほか、自分で行う文化活動、ボランティア、企業内教育、趣味など様々な学習」のことをいいます。

あなたは、「生涯学習」という言葉を聞いたことがありますか。(ひとつに○)

1. 聞いたことがあり、内容も理解している
2. 聞いたことがあるが、内容はよくわからない
3. 聞いたことはない

	1. 聞いたことがあり、内容も理解している	2. 聞いたことがあるが、内容はよくわからない	3. 聞いたことはない
全体 (n=321)	39.3 %	51.1 %	9.7 %
男性 (n=129)	38.0 %	48.8 %	13.2 %
女性 (n=186)	39.2 %	53.2 %	7.5 %

問2

あなたは、この1年間に次のような「生涯学習」をしましたか。(○はいくつでも)

1. 趣味的なもの(音楽、美術、書道、舞踊、料理、茶道など)
2. 教養的なもの(文学、語学、科学、歴史、人権問題など)
3. 子どもの成長発達や教育(育児、幼児教育、教育問題など)
4. 健康・スポーツ(医学、体力づくり、健康法、栄養、ダンス、水泳など)
5. 職業上必要な知識、技能(資格取得、仕事に関係のある知識の習得など)
6. ボランティア活動や地域活動、そのために必要な知識・技能
7. パソコン・インターネットに関すること
8. 郷土に関すること(歴史、産業、まちづくり、自然など)
9. 学校(大学、大学院、専修学校、各種学校)での教育・学習
10. その他 ()
11. (この1年くらい) していない ⇨問5へお進みください

	1. 趣味	2. 教養	3. 教育	4. 健康・スポーツ	5. 職業上の知識	6. ボランティア	7. パソコン、インターネット	8. 郷土	9. 学校学習	10. その他	11. していない
全体 (n=321)	22.0%	7.2%	9.0%	26.0%	13.7%	7.8%	5.0%	2.8%	3.1%	0.0%	43.6%
男性 (n=129)	15.0%	11.0%	6.2%	22.0%	20.2%	8.5%	7.8%	6.2%	3.9%	0.0%	47.3%
女性 (n=186)	26.0%	4.8%	11.0%	28.0%	9.7%	7.5%	2.7%	0.0%	2.7%	0.0%	41.4%

(問2で何らかの生涯学習をしたと答えた方)

問3 あなたが行った学習等の方法をお知らせください。(〇はいくつでも)

1. 本を読んで
2. テレビ、ラジオの教育番組を利用して
3. パソコン、インターネットを利用して
4. 通信教育制度を利用して
5. グループ、サークル、団体等に参加
6. 民間のカルチャーセンター、塾、教室など
7. 五泉市の講座、教室、研修会など
8. 県や他市町村が行う講座、教室、研修会など
9. 学校等教育機関での教育・学習、公開講座など
10. その他(具体的に)

	1. 本を読んで	2. テレビ、ラジオ	3. パソコン、インターネット	4. 通信教育制度	5. グループ、サークル、団体等	6. 民間の塾、教室など	7. 五泉市の講座など	8. 県や他市町村が行う講座など	9. 学校等教育機関での教育など	10. その他
全体 (n=166)	27.7 %	10.8 %	24.1 %	3.0 %	37.3 %	10.8 %	20.5 %	7.2 %	8.4 %	4.2 %
男性 (n=62)	37.1 %	11.3 %	37.1 %	1.6 %	32.3 %	4.8 %	11.3 %	3.2 %	8.1 %	6.5 %
女性 (n=100)	23.0 %	11.0 %	17.0 %	4.0 %	38.0 %	15.0 %	25.0 %	9.0 %	9.0 %	3.0 %

(問2で何らかの生涯学習をしたと答えた方)

問4 あなたは「生涯学習」を通じて身につけた知識・技能や体験をどのように生かしていますか。(〇はいくつでも)

1. 家庭や日常生活
2. 仕事や就職、資格の取得
3. 記録や大会などの「成果」
4. ボランティア活動や地域活動
5. 他の人への指導
6. 生きがい、心の豊かさ
7. 人とのつながり、コミュニケーション
8. その他の生かし方(具体的に:)
9. 生かしていない

	1. 家庭や日常生活	2. 仕事や就職、資格の取得	3. 記録や大会などの「成果」	4. ボランティア活動や地域活動	5. 他の人への指導	6. 生きがい、心の豊かさ	7. 人とのつながり、コミュニケーション	8. その他の生かし方	9. 生かしていない
全体 (n=166)	46.4 %	28.3 %	3.0 %	13.9 %	10.8 %	45.8 %	45.2 %	2.4 %	2.4 %
男性 (n=62)	37.1 %	41.9 %	3.2 %	14.5 %	16.1 %	43.5 %	29.0 %	3.2 %	3.2 %
女性 (n=100)	53.0 %	21.0 %	3.0 %	13.0 %	8.0 %	46.0 %	54.0 %	2.0 %	2.0 %

(全ての方)

問5 あなたは今後、「生涯学習」をしたいと思いますか。(ひとつに〇)

※今もしていて続けたい場合は、「1. したい」に〇をつけてください。

1. したい
2. どちらかといえば、したい
3. どちらかといえば、したくない
4. しない・したくない

	1. したい	2. どちらかといえば、したい	3. どちらかといえば、したくない	4. しない・したくない
全体 (n=321)	36.4 %	38.6 %	13.4 %	9.3 %
男性 (n=129)	32.6 %	34.9 %	16.3 %	14.7 %
女性 (n=186)	38.7 %	40.9 %	11.8 %	5.9 %

■ スポーツ活動についておうかがいします

問6 あなたは、定期的に運動を行っていますか。(ひとつに○)

1. 週3回以上 2. 週1~2回 3. 月1~2回程度
4. していない ⇨ 問9へお進みください

	1. 週3回以上	2. 週1~2回	3. 月1~2回程度	4. していない	不明
全体(n=321)	15.9%	18.1%	8.4%	56.4%	1.2%
男性(n=129)	16.3%	14.7%	9.3%	58.1%	1.6%
女性(n=186)	16.1%	19.9%	7.5%	55.4%	1.1%

(問6で1~4に○の方)

問7 主にどのような運動をしていますか。(○はいくつでも)

1. ジョギング 2. ウォーキング 3. 筋力トレーニング 4. エアロビクス
5. ダンス 6. ヨガ、ピラティス 7. 柔道などの武道
8. 水泳、水中ウォーキング 9. 野球、バレーボールなどの球技スポーツ(種目)
10. その他のスポーツ(具体的に:) 11. スポーツはしたくない、できない

	1. ジョギング	2. ウォーキング	3. 筋力トレーニング	4. エアロビクス	5. ダンス	6. ヨガ、ピラティス	7. 柔道などの武道	8. 水泳、水中ウォーキング	9. 野球、バレーボールなどの球技スポーツ	10. その他	不明
全体(n=136)	16.2%	41.2%	25.7%	2.9%	5.9%	10.3%	0.0%	5.9%	16.9%	20.6%	0.7%
男性(n=52)	25.0%	38.5%	28.8%	1.9%	1.9%	1.9%	0.0%	3.8%	25.0%	17.3%	0.0%
女性(n=81)	9.9%	42.0%	24.7%	3.7%	8.6%	16.0%	0.0%	7.4%	12.3%	22.2%	1.2%

(問6で1~4に○の方)

問8 あなたは、何を目的にスポーツをしていますか。(○はいくつでも)

1. 健康や体力の維持・増進、ダイエット 2. ストレス解消や爽快感
3. 記録や勝利など、競技での結果 4. 人とのつながり、コミュニケーション
5. 生きがい、心の豊かさ 6. 他の人への指導
7. その他の目的(具体的に:)

	1. 健康や体力の維持・増進、ダイエット	2. ストレス解消や爽快感	3. 記録や勝利など、競技での結果	4. 人とのつながり、コミュニケーション	5. 生きがい、心の豊かさ	6. 他の人への指導	7. その他の目的	不明
全体(n=136)	83.1%	45.6%	3.7%	30.1%	25.0%	0.7%	1.5%	0.7%
男性(n=52)	82.7%	38.5%	3.8%	23.1%	19.2%	0.0%	1.9%	0.0%
女性(n=81)	82.7%	49.4%	3.7%	33.3%	28.4%	1.2%	1.2%	1.2%

(全ての方)

問 9 今後、どのようなスポーツ（運動）をやってみたいですか。（○はいくつでも）

※今やっているスポーツを続けたい場合も、そのスポーツの番号に○をつけてください。

1. ジョギング 2. ウォーキング 3. 筋力トレーニング 4. エアロビクス
 5. ダンス 6. ヨガ、ピラティス 7. 柔道などの武道
 8. 水泳、水中ウォーキング 9. 野球、バレーボールなどの球技スポーツ（種目 ）
 10. その他のスポーツ（具体的に： ） 11. スポーツはしたくない、できない

	1. ジョギ ング	2. ウォー キング	3. 筋カト レーニ ング	4. エアロ ビクス	5. ダンス	6. ヨガ、 ピラテ イス	7. 柔道な どの武 道	8. 水泳、 水中ウ ォーキ ング	9. 野球、 バレー ボール などの 球技ス ポーツ	10. その他 のスポ ーツ	11. スポー ツはし たくな い、で きない	不明
全体 (n=321)	15.9%	38.9%	24.0%	5.0%	6.2%	19.0%	1.6%	17.4%	14.0%	4.7%	13.1%	4.0%
男性 (n=129)	21.7%	37.2%	23.3%	1.6%	1.6%	3.9%	3.1%	10.9%	19.4%	7.0%	15.5%	3.1%
女性 (n=186)	11.3%	39.8%	23.7%	7.0%	9.7%	29.6%	0.5%	21.5%	10.8%	2.7%	11.8%	4.8%

問 10 あなたがスポーツ教室に参加するとしたら、どの時間帯がよいですか。該当する番号に丸をつけてください。（○はいくつでも）

	午前	午後	夜間
平日	1	2	3
土曜・日曜・祝日	4	5	6

	1. 平日：午前	2. 平日：午後	3. 平日：夜間	4. 土曜・日曜・ 祝日：午前	5. 土曜・日曜・ 祝日：午後	6. 土曜・日曜・ 祝日：夜間	不明
全体 (n=321)	26.2%	24.3%	31.5%	18.7%	12.5%	15.0%	6.9%
男性 (n=129)	17.8%	22.5%	33.3%	26.4%	14.0%	15.5%	8.5%
女性 (n=186)	32.3%	23.7%	30.6%	14.0%	11.3%	14.5%	5.9%

問 11 あなたは、総合型地域スポーツクラブ「ヴィガ」（子どもから高齢者まで気軽に参加できるスポーツ教室やイベントを行っているクラブ）とは、どのようなものかを知っていますか。（ひとつに○）

1. 知っている 2. 聞いた事はあるが、内容まで知らない 3. 知らない

	1. 知っている	2. 聞いた事はある が、内容まで知らない	3. 知らない	不明
全体(n=321)	21.5%	32.4%	44.5%	1.6%
男性(n=129)	13.2%	21.7%	64.3%	0.8%
女性(n=186)	26.9%	39.8%	31.2%	2.2%

問 12

あなたは、総合型地域スポーツクラブ「ヴィガ」にどのようなスポーツ教室を希望しますか。
(○はいくつでも)

1. 健康増進のための運動教室
2. 各種競技別の運動教室
3. レクリエーショナルな教室
4. 複数の種目が体験できる教室
5. 親子で参加できる教室
6. 子ども向け運動教室
7. その他のスポーツ (具体的に:)
8. わからない

	1. 健康増進 のための 運動教室	2. 各種競技 別の運動 教室	3. レクリエ ーシ ョ ン 的 な 教 室	4. 複 数 の 種 目 が 体 験 で き る 教 室	5. 親 子 で 参 加 で き る 教 室	6. 子 ど も 向 け 運 動 教 室	7. そ の 他 の ス ポ ー ツ	8. わ か ら な い	不明
全体 (n=321)	49.2 %	5.9 %	10.3 %	10.3 %	10.3 %	6.9 %	1.6 %	30.8 %	5.3 %
男性 (n=129)	39.5 %	7.0 %	7.8 %	7.0 %	10.9 %	3.9 %	0.8 %	48.8 %	2.3 %
女性 (n=186)	55.9 %	5.4 %	11.8 %	12.9 %	10.2 %	9.1 %	1.6 %	18.8 %	7.0 %

■ 文化や芸術の活動についておうかがいします

問 13

あなたは、この1年間に次のような芸術や文化的な催しに出かけたり、会場で直接鑑賞したりしましたか。(○はいくつでも)

1. 美術 (写真・工芸なども含む)
2. 音楽コンサート
3. 演劇・演芸
4. 舞踊 (バレエ・日本舞踊など)
5. 古典芸能 (歌舞伎・能・狂言・邦楽など)
6. 生活文化 (生花展・茶会など)
7. 映画
8. 郷土芸能 (民謡・神楽・太鼓など)
9. 文化財 (史跡・名勝・天然記念物・古民家・街並み・社寺などの見学)
10. その他のジャンル (具体的に:)
11. 一度も行かなかった

	1. 美術	2. 音楽コ ンサ ー ト	3. 演 劇 ・ 演 芸	4. 舞 踊	5. 古 典 芸 能	6. 生 活 文 化	7. 映 画	8. 郷 土 芸 能	9. 文 化 財	10. そ の 他 の ジ ャ ン ル	11. 一 度 も 行 か な か っ た	不明
全体 (n=321)	29.3 %	25.2 %	6.9 %	1.6 %	2.5 %	6.5 %	33.0 %	1.9 %	22.4 %	1.6 %	29.9 %	1.2 %
男性 (n=129)	24.8 %	14.0 %	4.7 %	2.3 %	0.8 %	2.3 %	27.1 %	3.1 %	26.4 %	0.8 %	38.0 %	1.6 %
女性 (n=186)	32.8 %	33.3 %	8.6 %	1.1 %	3.8 %	9.7 %	37.1 %	1.1 %	19.9 %	1.6 %	24.7 %	0.5 %

問 14

五泉市で開催されている芸術や文化の催しにどの程度参加していますか。
(A~Gごとに、ひとつに○)

	1.ほとんど 毎年行く	2.行ったこ とがある	3.知っている が行った ことはない	4.催しがあ るのを知ら なかった
A 市展・文化展	1	2	3	4
B 市民音楽祭	1	2	3	4
C 市民芸能祭	1	2	3	4
D 生涯学習フェスティバル「いずみちゃん楽習フェスタ」	1	2	3	4
E さくらんどう奏楽の夕べ (自衛隊演奏会)	1	2	3	4
F ベーゼンドルファーピアノコンサート	1	2	3	4
G サロンコンサート	1	2	3	4

	1. ほとんど毎年行く	2. 行ったことがある	3. 知っているが行ったことはない	4. 催しがあるの を知らなかった	不明
A市展・文化展	16.8 %	30.8 %	31.8 %	16.5 %	4.0 %
B市民音楽祭	2.8 %	14.3 %	44.2 %	25.5 %	13.1 %
C市民芸能祭	3.1 %	14.3 %	44.5 %	24.6 %	13.4 %
D生涯学習フェスティバル	1.9 %	9.0 %	33.3 %	41.7 %	14.0 %
Eさくらんどう奏楽の夕べ	4.4 %	14.3 %	39.3 %	31.2 %	10.9 %
Fバーゼンドルフアーピア ノコンサート	0.9 %	5.0 %	30.2 %	49.8 %	14.0 %
Gサロンコンサート	0.6 %	5.6 %	28.3 %	51.4 %	14.0 %

問 15 あなたは、この1年間にご自身で次のような文化・芸術活動をしましたか。(〇はいくつでも)

1. 美術（写真・工芸なども含む）
2. 音楽（楽器の演奏、合唱など）
3. 演劇・演芸
4. 舞踊（バレエ・日本舞踊など）
5. 文芸・俳句など
6. 郷土芸能（民謡・神楽・太鼓など）
7. 生活文化（華道・茶道・書道・手芸・盆栽・園芸・囲碁・将棋など）
8. メディア芸術(アニメーションや動画の制作など)
9. その他のジャンル（具体的に：)
10. 一度もしなかった

	1. 美術	2. 音楽	3. 演劇・演芸	4. 舞踊	5. 文芸・俳句など	6. 郷土芸能	7. 生活文化	8. メディア芸術	9. その他のジャンル	10. 一度もしなかった	不明
全体 (n=321)	5.9 %	3.7 %	0.3 %	1.9 %	1.2 %	1.9 %	13.7 %	0.6 %	0.9 %	72.9 %	4.0 %
男性 (n=129)	6.2 %	3.1 %	0.8 %	0.0 %	0.0 %	3.1 %	9.3 %	1.6 %	1.6 %	80.6 %	0.8 %
女性 (n=186)	5.9 %	3.8 %	0.0 %	3.2 %	2.2 %	1.1 %	17.2 %	0.0 %	0.0 %	67.7 %	6.5 %

問 16 あなたは今後、文化や芸術の鑑賞や、自ら行う文化・芸術活動などをしたいと思いますか。
(A・Bそれぞれ、ひとつに〇)

※今もしていて続けたい場合は、「1. したい」に〇をつけてください。

	1. したい	2. どちらか といえば、 したい	3. どちらか といえば、 したくない	4. しない・ したくない
A 文化や芸術の鑑賞	1	2	3	4
B 自ら行う文化・芸術活動	1	2	3	4

	1. したい	2. どちらかとい えば、したい	3. どちらかとい えば、したくない	4. ない・したくない	不明
A文化や芸術の鑑賞 (SA)	28.0 %	32.7 %	15.6 %	18.4 %	5.3 %
B自ら行う文化・芸術活動	14.6 %	22.7 %	24.9 %	28.0 %	9.7 %

■ 読書についておうかがいします

問 17 あなたは、この1年間に本を何冊くらい読みましたか。(ひとつに○)

1. 週1冊以上 2. 月に2～3冊くらい 3. 月に1冊くらい
 4. 2～3ヶ月に1冊くらい 5. 半年に1冊くらい 6. 1年に1冊くらい
 7. 全く読まなかった

	1. 週1冊以上	2. 月に2～3冊くらい	3. 月に1冊くらい	4. 2～3ヶ月に1冊くらい	5. 半年に1冊くらい	6. 1年に1冊くらい	7. 全く読まなかった	不明
全体 (n=321)	3.7%	11.5%	12.1%	14.3%	10.9%	13.7%	30.5%	3.1%
男性 (n=129)	5.4%	14.0%	14.0%	14.0%	7.8%	8.5%	34.9%	1.6%
女性 (n=186)	2.7%	10.2%	11.3%	14.0%	12.4%	17.2%	28.0%	4.3%

問 18 あなたは、この1年間に五泉図書館・村松図書館を利用したことがありますか。(ひとつに○)

1. ある 2. ない ♪ 問 20 へお進みください

	1. ある	2. ない	不明
全体(n=321)	30.2%	68.2%	1.6%
男性(n=129)	20.9%	78.3%	0.8%
女性(n=186)	35.5%	62.4%	2.2%

(問 18 で1に○の方)

問 19 五泉図書館や村松図書館をどのように利用しましたか。(○はいくつでも)

1. 館内で本や雑誌・新聞などを読む 2. 本や雑誌・CDなどの貸出・返却
 3. 図書館の本などで調べものをする 4. 図書館員に調べものを相談する
 5. インターネット閲覧端末を利用する 6. 自分の持ち込みの本などで学習や調べものをする
 7. おはなし会、シネマ、講演・講座等の催しものに参加する
 8. 会議室等の施設を利用する 9. その他(具体的に：)

	1. 館内で本や雑誌・新聞などを読む	2. 本や雑誌・CDの貸出・返却	3. 図書館の本などで調べものをする	4. 図書館員に調べものを相談する	5. インターネット閲覧端末を利用する	6. 自分の持ち込みの本などで学習や調べものをする	7. おはなし会、シネマ、講演・講座等の催しものに参加する	8. 会議室等の施設を利用する	9. その他	不明
全体 (n=97)	46.4%	55.7%	35.1%	7.2%	5.2%	4.1%	6.2%	11.3%	2.1%	2.1%
男性 (n=27)	55.6%	51.9%	40.7%	11.1%	7.4%	11.1%	0.0%	11.1%	0.0%	0.0%
女性 (n=66)	40.9%	56.1%	33.3%	6.1%	4.5%	1.5%	9.1%	9.1%	3.0%	3.0%

(全ての方)

問 20

あなたは、どういった環境があれば、もっと図書館を利用したいと思いますか。
(○はいくつでも)

1. 本や雑誌等の充実
2. 調べものの相談サービスの充実
3. 開館日や開館時間の拡大
4. おはなし会、シネマ、読書会、講演・講座などの催しの増加
5. 図書館の本や催しなどの情報が手に入りやすくなる
6. 施設や設備が充実する
7. カフェなど、読書以外の目的で行ける場所ができる
8. 幼児や子どもが利用できるキッズスペースが充実する
9. 図書館への交通の便がよくなる
10. 移動図書館など、図書館の方が身近に来てくれる
11. その他(具体的に:)

	1. 本や雑誌等の充実	2. 調べものの相談サービスの充実	3. 開館日や開館時間の拡大	4. おはなし会、シネマ、読書会、講演・講座などの催しの増加	5. 図書館の本や催しなどの情報が手に入りやすくなる	6. 施設や設備が充実する
全体 (n=321)	33.0 %	7.5 %	16.5 %	12.5 %	16.8 %	13.4 %
男性 (n=129)	34.9 %	7.8 %	17.1 %	8.5 %	17.8 %	11.6 %
女性 (n=186)	31.2 %	7.5 %	16.1 %	15.6 %	15.6 %	14.5 %

	7. カフェなど、読書以外の目的で行ける場所ができる	8. 幼児や子どもが利用できるキッズスペースが充実する	9. 図書館への交通の便がよくなる	10. 移動図書館など、図書館の方が身近に来てくれる	11. その他	不明
全体 (n=321)	48.3 %	9.0 %	8.1 %	4.7 %	8.1 %	8.7 %
男性 (n=129)	44.2 %	5.4 %	6.2 %	4.7 %	10.9 %	5.4 %
女性 (n=186)	50.5 %	11.8 %	9.7 %	4.8 %	5.9 %	11.3 %

■ 子どもや青少年の育成についておうかがいします

問 21

あなたは、子どもや青少年を取り巻く社会について、どういった点に課題があると思いますか。
(○はいくつでも)

1. 家族関係の希薄化
2. 家庭での生活習慣やマナーの低下
3. 家庭での教育に対する考え方の多様化
4. 祖父母など三世代交流の減少
5. 大人の規範意識やモラルの低下
6. 地域や近所との付き合いの減少
7. 祭りや行事などが廃れてきている
8. 過度な部活動などの大会至上主義
9. スマートフォンやインターネットの普及
10. 自然体験や社会体験が少ない
11. 相談できる相手がなく悩みを抱え込みがち
12. 子どもや青少年同士の人間関係の複雑化
13. 親の収入等により子どもの教育機会に格差が生じている
14. その他(具体的に:)
15. 特に課題があるとは思わない

	1. 家族関係の希薄化	2. 家庭での生活習慣やマナーの低下	3. 家庭での教育に対する考え方の多様化	4. 祖父母など三世代交流の減少	5. 大人の規範意識やモラルの低下	6. 地域や近所との付き合いの減少	7. 祭りや行事などが廃れてきている	8. 過度な部活動などの大会至上主義
全体 (n=321)	31.8%	49.5%	24.9%	36.4%	45.5%	42.7%	21.5%	11.2%
男性 (n=129)	28.7%	52.7%	27.9%	34.1%	50.4%	42.6%	27.9%	11.6%
女性 (n=186)	32.8%	46.8%	22.0%	37.1%	41.4%	41.9%	16.7%	9.1%

	9. スマートフォンやインターネットの普及	10. 自然体験や社会体験が少ない	11. 相談できる相手がなく悩みを抱え込みがち	12. 子どもや青少年同士の人間関係の複雑化	13. 親の収入等により子どもの教育機会に格差が生じている	14. その他	15. 特に課題があるとは思わない	不明
全体 (n=321)	53.3%	25.5%	23.1%	28.0%	25.5%	2.5%	2.2%	2.2%
男性 (n=129)	47.3%	31.8%	23.3%	28.7%	28.7%	0.8%	3.9%	1.6%
女性 (n=186)	58.1%	21.5%	21.5%	27.4%	23.1%	3.2%	1.1%	2.7%

問 22

あなたは、子どもや青少年の健全育成のために、どういった事業や環境を整えればよいと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 自然体験や各種社会体験ができる機会の増加
2. いじめ、スマートフォンの適切な利用など昨今の課題について、子ども向けの研修等を開催
3. 学校以外の多様な子どもの居場所づくり(文化活動、スポーツ、図書館など)
4. 祭りや伝統行事などへの子どもたちの参加促進
5. 子どもたちが悩みを気軽に相談できる体制の充実
6. 保護者への研修等を行い、家庭教育の知識を身につける
7. 親が子育てに悩んだときに気軽に相談できる窓口の充実
8. 大人からの声かけ、あいさつを積極的に行う
9. 引きこもりや不登校への支援の充実
10. 子ども会交流事業など、地域やPTAに関わる事業の充実
11. 奨学金や無料の学習指導など、経済格差解消に向けた事業の実施
12. その他(具体的に：)
13. 何かをする必要はない

	1. 自然体験や各種社会体験ができる機会の増加	2. いじめ、スマートフォンの適切な利用など昨今の課題について、子ども向けの研修等を開催	3. 学校以外の多様な子どもの居場所づくり	4. 祭りや伝統行事などへの子どもたちの参加促進	5. 子どもたちが悩みを気軽に相談できる体制の充実	6. 保護者への研修等を行い、家庭教育の知識を身につける	7. 親が子育てに悩んだときに気軽に相談できる窓口の充実
全体 (n=321)	26.8%	49.2%	33.3%	26.2%	43%	24.9%	37.7%
男性 (n=129)	28.7%	48.1%	33.3%	32.6%	38.8%	27.1%	31.8%
女性 (n=186)	25.8%	50.5%	33.9%	21.0%	45.7%	23.7%	41.4%

	8. 大人からの声かけ、あいさつを積極的に行う	9. 引きこもりや不登校への支援の充実	10. 子ども会交流事業など、地域やPTAに関わる事業の充実	11. 奨学金や無料の学習指導など、経済格差解消に向けた事業の実施	12. その他	13. 何かをする必要はない	不明
全体 (n=321)	28.3 %	27.4 %	6.9 %	31.8 %	1.9 %	1.2 %	3.1 %
男性 (n=129)	31.8 %	25.6 %	8.5 %	29.5 %	3.1 %	2.3 %	1.6 %
女性 (n=186)	25.8 %	28.0 %	5.9 %	32.3 %	0.5 %	0.5 %	3.8 %

■ ボランティア活動についておうかがいします

問 23

自分の本来の仕事、学業とは別に、自主的に地域や社会のために時間や労力、知識、技能などを提供する活動を「ボランティア活動」といいます。あなたはこの1年間に生涯学習分野に関するボランティア活動をしましたか。有償ボランティアも含まれます。(〇はいくつでも)

1. 図書館などでの読み聞かせ
2. 郷土芸能に関する指導
3. スポーツ・レクリエーション指導
4. 学校の総合的な学習や教科学習に関する指導助言
5. 子育てに関する支援活動
6. 地域の安全、防犯に関する活動（子供の登下校時の安全監視など）
7. 文化ボランティア（文化ホールや美術館などでの案内や展示物の解説、文化事業の支援活動など）
8. 観光ボランティア（観光地や史跡の案内・解説、外国人への観光案内など）
9. その他（具体的に： ）
10. この1年間にボランティア活動はしなかった

	1. 図書館などでの読み聞かせ	2. 郷土芸能に関する指導	3. スポーツ・レクリエーション指導	4. 学校の総合的な学習や教科学習に関する指導助言	5. 子育てに関する支援活動	6. 地域の安全、防犯に関する活動
全体 (n=321)	0.3 %	0.6 %	3.4 %	1.2 %	1.2 %	3.4 %
男性 (n=129)	0.0 %	1.6 %	7.8 %	0.8 %	1.6 %	3.9 %
女性 (n=186)	0.5 %	0.0 %	0.5 %	1.6 %	1.1 %	2.2 %

	7. 文化ボランティア	8. 観光ボランティア	9. その他	10. この1年間にボランティア活動はしなかった	不明
全体 (n=321)	0.9 %	0.6 %	4.4 %	78.8 %	6.9 %
男性 (n=129)	2.3 %	1.6 %	5.4 %	76.7 %	1.6 %
女性 (n=186)	0.0 %	0.0 %	3.8 %	81.2 %	10.2 %

問 24 あなたは今後、「ボランティア活動」をしたいと思いますか。(ひとつに○)

※今もしていて続けたい場合は、「1. したい」に○をつけてください。

1. したい 2. 機会があればしたい 3. しない・したくない

	1. したい	2. 機会があれば したい	3. しない・した くない	不明
全体 (n=321)	8.4 %	57.3 %	30.8 %	3.4 %
男性 (n=129)	10.9 %	55.8 %	31 %	2.3 %
女性 (n=186)	5.9 %	59.1 %	31.2 %	3.8 %

■ 講座等の経費負担についておうかがいします

問 25 あなたは五泉市が開催するスポーツや教養講座を受講する場合の受講料について、どのように考えますか。(ひとつに○)

1. 自分が学習するのだから、原則的に全額自己負担が望ましいと思う
2. 市が開催しているが、自分が学習するのだから、実費や経費の一部負担程度は必要と思う
3. 市が開催するのだから、すべて無料にすべきと思う

	1. 自分が学習するのだから、原則的に全額自己負担が望ましいと思う	2. 自分が学習するのだから、実費や経費の一部負担程度は必要と思う	3. 市が開催するのだから、すべて無料にすべきと思う	不明
全体 (n=321)	13.1 %	67.9 %	15.9 %	3.1 %
男性 (n=129)	16.3 %	65.9 %	15.5 %	2.3 %
女性 (n=186)	10.8 %	69.9 %	16.1 %	3.2 %

問 26 あなたはスポーツや学習・サークル活動をするときの施設使用料について、どのように考えますか。(ひとつに○)

1. 自分（サークル）が使うのだから、原則的に全額自己負担が望ましいと思う
2. 市の施設だが、自分（サークル）が使うのだから、実費や経費の一部負担程度は必要と思う
3. 市の施設だから、すべて無料にすべきと思う

	1. 自分（サークル）が使うのだから、原則的に全額自己負担が望ましいと思う	2. 自分（サークル）が使うのだから、実費や経費の一部負担程度は必要と思う	3. 市の施設だから、すべて無料にすべきと思う	不明
全体 (n=321)	9.3 %	64.2 %	23.7 %	2.8 %
男性 (n=129)	15.5 %	62.8 %	20.9 %	0.8 %
女性 (n=186)	5.4 %	65.1 %	25.8 %	3.8 %

■ グループやサークルについておうかがいします

問 27 あなたは、運動や趣味のグループやサークルに加入して活動していますか。(ひとつに○)

1. 加入している 2. 加入していない ⇨ 問 29 へお進みください

	1. 加入している	2. 加入していない	3. 不明
全体(n=321)	25.9 %	71.3 %	2.8 %
男性(n=129)	22.5 %	75.2 %	2.3 %
女性(n=186)	27.4 %	69.9 %	2.7 %

(問 27 で1と回答した方)

問 28 あなたが加入しているのは、どのようなグループやサークルですか。(○はいくつでも)

1. 同じ趣味の仲間同士 2. 同じスポーツをしている仲間同士
 3. 生涯学習課・公民館が開催した講座から発展したグループ
 4. ボランティア団体 5. 地域団体(子ども会・PTA・老人クラブ等)
 6. 学校のクラブ、サークル 7. その他(具体的に:)

	1. 同じ趣味の仲間同士	2. 同じスポーツをしている仲間同士	3. 生涯学習課・公民館が開催した講座から発展したグループ	4. ボランティア団体	5. 地域団体	6. 学校のクラブ、サークル	7. その他	不明
全体(n=83)	50.6 %	38.6 %	20.5 %	8.4 %	6.0 %	3.6 %	9.6 %	0.0 %
男性(n=29)	48.3 %	41.4 %	3.4 %	13.8 %	10.3 %	6.9 %	10.3 %	0.0 %
女性(n=51)	51.0 %	39.2 %	29.4 %	5.9 %	2.0 %	2.0 %	9.8 %	0.0 %

■ 情報提供についておうかがいします

(全ての方)

問 29 あなたは、生涯学習やスポーツに関わる講座や施設の情報は、ふだん、どのような方法で知りますか。(○はいくつでも)

1. 広報ごせん 2. 新聞や雑誌 3. テレビやラジオ放送
 4. 公共機関などに掲示や配布されるポスターやチラシ・パンフレット
 5. くちコミ 6. インターネットで検索 7. その他(具体的に:)

	1. 広報ごせん	2. 新聞や雑誌	3. テレビやラジオ放送	4. 公共機関などに掲示や配布されるポスターやチラシ・パンフレット	5. くちコミ	6. インターネットで検索	7. その他	不明
全体(n=321)	85.4 %	13.4 %	6.9 %	27.4 %	20.9 %	8.7 %	0.3 %	2.5 %
男性(n=129)	82.9 %	17.8 %	8.5 %	22.5 %	14.7 %	10.1 %	0.8 %	2.3 %
女性(n=186)	87.6 %	10.8 %	5.9 %	30.1 %	24.7 %	7.5 %	0.0 %	2.2 %

問 30

あなたは、どのような情報提供手段が充実していれば、市内の生涯学習・スポーツの講座や施設に関する情報が受け取りやすくなると思いますか。(○はいくつでも)

1. 広報ごせん
2. 新聞や雑誌
3. テレビやラジオ放送
4. 公共機関などに掲示や配布されるポスターやチラシ・パンフレット
5. ダイレクトメール(郵送など)
6. 市のホームページ
7. メールマガジン(パソコンや携帯電話などにメールで情報が届く)
8. LINE や Facebook などの SNS*
9. その他 (具体的に：)

*SNS:インターネットを用いて気軽に多くの人と会話できるソーシャル・ネットワーキング・サービス。LINE、Twitter、Facebook、Instagram など。

	1. 広報ごせん	2. 新聞や雑誌	3. テレビやラジオ放送	4. 公共機関などに掲示や配布されるポスターやチラシ・パンフレット	5. ダイレクトメール	6. 市のホームページ	7. メールマガジン	8. LINE や Facebook などの SNS	9. その他	不明
全体 (n=321)	82.2 %	18.1 %	13.7 %	29.6 %	10.0 %	22.1 %	11.2 %	10.6 %	0.6 %	3.4 %
男性 (n=129)	79.8 %	22.5 %	20.9 %	24.8 %	9.3 %	27.1 %	13.2 %	9.3 %	0.8 %	3.1 %
女性 (n=186)	83.9 %	15.1 %	9.1 %	32.8 %	10.8 %	18.8 %	10.2 %	11.8 %	0.5 %	3.2 %

■ 市内の施設についておうかがいします

問 31

次のなかで、この1年間に利用した施設に○をつけてください。(○はいくつでも)

総合施設	1. 総合会館	2. 粟島ふれあい館 (旧勤労青少年ホーム)
文化施設	3. さくらんど会館	4. 郷土資料館
	5. 陶芸工房 (森林公園内・丸田地内)	6. 陶芸施設 (旧村松老人センター分館)
公民館	7. 村松公民館	8. 地区公民館 (川東・巢本・橋田)
体育館	9. さくらアリーナ	10. 川内体育館
	11. 十全体育館	12. 山王体育館
	13. 小中学校の体育館 (学校開放)	
競技場	14. 陸上競技場 (村松公園)	15. 粟島公園運動広場
プール	16. 市民プール (粟島地内)	17. 村松プール
野球場	18. 市営野球場 (丸田地内)	19. 村松野球場
	20. 西公園野球場	
テニスコート等	21. 粟島公園テニスコート	22. 村松テニスコート
	23. 五箇スポーツ会館	
武道場	24. 各技館 (総合会館併設)	25. 村松武道館
公園・自然体験	26. 森林公園 (丸田地内)	27. チャレンジランド杉川

	1. 総合 会館	2. 栗島 ふれあい 館	3. さく らんど会 館	4. 郷土 資料館	5. 陶芸 工房	6. 陶芸 施設	7. 村松 公民館	8. 地区 公民館	9. さく らアリー ナ	10. 川 内体育館
全体 (n=321)	28.0 %	3.7 %	26.5 %	1.2 %	0.6 %	0.0 %	4.0 %	3.7 %	20.6 %	0.0 %
男性 (n=129)	27.9 %	2.3 %	22.5 %	1.6 %	0.8 %	0.0 %	4.7 %	5.4 %	17.8 %	0.0 %
女性 (n=186)	28.0 %	4.3 %	29.0 %	1.1 %	0.0 %	0.0 %	3.8 %	2.7 %	22.0 %	0.0 %

	11. 十 全体育館	12. 山 王体育館	13. 小 中学校の 体育館	14. 陸 上競技場	15. 栗 島公園運 動広場	16. 市 民プール	17. 村 松プール	18. 市 営野球場	19. 村 松野球場
全体 (n=321)	0.3 %	0.6 %	3.4 %	5.3 %	3.1 %	5.6 %	1.9 %	1.6 %	2.2 %
男性 (n=129)	0.0 %	0.0 %	3.1 %	7.8 %	4.7 %	3.9 %	2.3 %	2.3 %	3.9 %
女性 (n=186)	0.5 %	1.1 %	3.8 %	2.7 %	2.2 %	6.5 %	1.1 %	1.1 %	1.1 %

	20. 西 公園野球 場	21. 栗 島公園テ ニスコー ト	22. 村 松テニス コート	23. 五 箇スポー ツ会館	24. 各 技館	25. 村 松武道館	26. 森 林公園	27. チ ャレンジ ランド杉 川	不明
全体 (n=321)	0.3 %	1.6 %	0.6 %	0.6 %	2.2 %	0.9 %	1.2 %	1.2 %	44.5 %
男性 (n=129)	0.8 %	0.8 %	0.8 %	1.6 %	0.0 %	0.8 %	0.8 %	0.0 %	45.0 %
女性 (n=186)	0.0 %	2.2 %	0.5 %	0.0 %	3.8 %	1.1 %	1.6 %	2.2 %	44.6 %

■ 生涯学習をめぐる環境についておうかがいします

問 32

あなたは、どういった環境があれば、生涯学習やスポーツにもっと参加すると思いますか。
(○はいくつでも)

1. 時間的な余裕ができる
2. 経済的な余裕ができる
3. 保育や介護を任せられることができる
4. 参加しやすい時間帯に講座や教室等が開催される
5. 自分の興味に合致した講座や教室等が開催される
6. 一緒に楽しむ仲間ができる
7. 生涯学習やスポーツの講座などの情報が手に入る
8. その他（具体的に： ）

	1. 時間的 な余裕が できる	2. 経済的 な余裕が できる	3. 保育や 介護を任 せられる ことができる	4. 参加し やすい時 間帯に講 座や教室 等が開催 される	5. 自分の 興味に合 致した講 座や教室 等が開催 される	6. 一緒に 楽しむ仲 間ができ る	7. 生涯学 習やスポ ーツの講 座などの 情報が手 に入る	8. その他	不明
全体 (n=321)	62.6 %	30.8 %	14.3 %	34.0 %	47.0 %	34.9 %	11.8 %	3.7 %	4.7 %
男性 (n=129)	58.9 %	31.8 %	10.1 %	25.6 %	44.2 %	34.9 %	12.4 %	2.3 %	7.0 %
女性 (n=186)	65.6 %	29.6 %	17.7 %	40.9 %	49.5 %	34.9 %	11.8 %	4.3 %	2.7 %

問 33

今後、市内の生涯学習を発展させるため、市はどのようなことに力を入れていくのがよいと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 受講生の希望に応じた講座を開設する
2. 講座などの日時を工夫する
3. コンサートや競技会などを、一流の演奏者やアスリート（競技者）を招いて開催する
4. 指導者の発掘や育成を推進する
5. サークルやスポーツクラブなどの育成を支援する
6. ボランティア等の制度を充実する
7. 講座や教室及びコンサートなどの開催情報を周知する
8. 市内の文化団体や指導者、利用できる施設などについての情報を周知する
9. 公民館や図書館などを整備充実する
10. 体育館、グラウンド、野球場などのスポーツ施設を整備充実する
11. 美術館・博物館・文化ホールなどの芸術や文化施設を整備充実する
12. 既存施設の利用手続きの簡略化
13. 既存施設の利用時間の延長
14. 文化財や伝統芸能などの維持・保存・伝承活動への支援
15. 文化財めぐりなど、歴史に触れるイベントや講演会の実施
16. その他（具体的に： _____)

	1. 受講生の希望に応じた講座を開設する	2. 講座などの日時を工夫する	3. コンサートや競技会などを、一流の演奏者やアスリートを招いて開催する	4. 指導者の発掘や育成を推進する	5. サークルやスポーツクラブなどの育成を支援する	6. ボランティア等の制度を充実する	7. 講座や教室及びコンサートなどの開催情報を周知する	8. 市内の文化団体や指導者、利用できる施設などについての情報を周知する	9. 公民館や図書館などを整備充実する
全体 (n=321)	34.3%	32.7%	20.6%	14.0%	17.8%	10.6%	19.9%	16.2%	19.0%
男性 (n=129)	31.8%	27.9%	18.6%	12.4%	20.2%	14.0%	14.7%	15.5%	12.4%
女性 (n=186)	36.0%	37.1%	21.5%	15.1%	15.6%	8.1%	23.7%	16.1%	22.6%

	10. 体育館、グラウンド、野球場などのスポーツ施設を整備充実する	11. 美術館・博物館・文化ホールなどの芸術や文化施設を整備充実する	12. 既存施設の利用手続きの簡略化	13. 既存施設の利用時間の延長	14. 文化財や伝統芸能などの維持・保存・伝承活動への支援	15. 文化財めぐりなど、歴史に触れるイベントや講演会の実施	16. その他	不明
全体 (n=321)	15.6%	16.8%	16.5%	8.1%	8.7%	14.0%	5.6%	5.6%
男性 (n=129)	22.5%	19.4%	19.4%	9.3%	10.9%	14.0%	7.8%	8.5%
女性 (n=186)	11.3%	15.1%	15.1%	7.0%	7.5%	14.5%	3.8%	3.2%

第2次五泉市生涯学習推進基本計画策定経過

日 付	内 容
平成 29 年 6 月 1 日	第 1 回 社会教育委員会議兼公民館運営審議会 ①第 2 次五泉市生涯学習推進基本計画の概要説明
6 月 26 日	第 2 回 社会教育委員会議兼公民館運営審議会 ①市民意識調査の内容検討について
7 月 6 日	第 3 回 社会教育委員会議兼公民館運営審議会 ①市民意識調査の内容検討について
7 月 27 日～ 8 月 15 日	「生涯学習に関する市民意識調査」実施 ①対象者：五泉市在住 20 歳以上の男女 ②配布回収方法：郵送による自記式アンケート ③調査数：無作為抽出による 1,000 人 ④有効回収数：321 人 ⑤回収率：32.1%
11 月 9 日	第 4 回 社会教育委員会議兼公民館運営審議会 ①市民意識調査の結果について ②計画案について
12 月 4 日	第 5 回 社会教育委員会議兼公民館運営審議会 ①計画案について ②基本理念案について
12 月 26 日	第 6 回 社会教育委員会議兼公民館運営審議会 ①パブリックコメントの実施について
平成 30 年 1 月 10 日 ～2 月 9 日	第 2 次五泉市生涯学習推進基本計画 パブリックコメント実施
3 月 8 日	第 7 回 社会教育委員会議兼公民館運営審議会 ①パブリックコメントの結果について

計画策定会議は、6/26、7/6、11/9、12/4、3/8の全5回。

第2次五泉市生涯学習推進基本計画策定委員

(五泉市社会教育委員兼公民館運営審議会委員)

(敬称略)

No	区分	氏名	所属等
1	委員長	鈴木 紀美子	学識経験者
2	副委員長	金山 昭英	学識経験者
3	委員	佐久間 淳介	学識経験者
4	委員	石本 豊	さくら学園
5	委員	大川 正史	五泉市小中学校校長会（橋田小学校）
6	委員	上村 茂	五泉市小中学校校長会（村松桜中学校）
7	委員	小黑 洋一	五泉市スポーツ推進委員
8	委員	亀山 大輔	学識経験者
9	委員	須田 かずえ	五泉市民生委員児童委員協議会
10	委員	関塚 真弓	学識経験者
11	委員	田島 富太	五泉市体育協会
12	委員	馬場 英明	五泉市小中学校PTA連絡協議会
13	委員	樋口 笑美子	ごせん女性学級
14	委員	樋口 義彦	五泉市社会教育関係団体
15	委員	松尾 幸一	五泉市文化協会

用語解説

(本文中の※印について解説)

	用語	説明
アルファベット	Facebook	世界規模で利用されるSNSサイトのひとつ。会員登録することで、友人や知人などとインターネット上で交流できるサービス。
	ICT	「Information and Communication Technology」=情報通信技術の略。コンピュータやインターネットのネットワークを活用した、情報処理や通信に関連する技術、産業、設備、サービスなどの総称。
	SNS	「Social Networking Service」=ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略。友人・知人などの社会的なつながりをオンラインで提供することを目的とするインターネットサービスのこと。
あ行	アーカイブ	「記録や資料などをひとまとめにして保存すること」や「そのようにしてまとめられた資料群のこと」、「その保存場所や保存機関のこと」を表す。
か行	学童クラブ	小学生の児童が、保護者の就労等により昼間家庭にいないことができない場合、保護者に代わって生活の場を確保し、心身の健全な育成を図ることを目的とした保育事業の名称。
	子どもの居場所づくり	放課後や週末に、子どもたちが安全に安心して活動できる場所を設け、地域社会の中ですこやかに育まれる環境づくりを行う取り組み。
さ行	総合型地域スポーツクラブ	子どもから高齢者まで(多世代)、さまざまなスポーツを愛好する人々が(多種目)、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる(多志向)、新しいタイプのスポーツクラブ。地域住民により自主的・主体的に運営される。
た行	第2期教育振興基本計画	平成25～平成29年度を期間とする、国による教育振興に向けた施策。「自立」「協働」「創造」の3つをキーワードに、一人ひとりの潜在能力を最大限伸ばしていく観点から、大学等への社会人の受け入れ、多様な学習サービスの質の保証と向上、学習成果の評価・活用、学習を通じた地域活動の推進、現代的・社会的な課題に対応した学習等の推進などが示されている。
	中央教育審議会	文部科学大臣の諮問機関で、教育や学術、文化に関わる政策を審議して提言する。最も基本的な重要事項を取り扱う。
は行	ひかるくん・ひかりちゃん安心メール	新潟県警が希望者に配信する情報メール。カテゴリは「子ども対象の事件・不審者情報」「事件の発生・手配情報」「防犯対策情報」「その他お知らせ」の4つ。
や行	ユネスコ	「United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization U.N.E.S.C.O.」=国際連合教育科学文化機関の略。諸国民の教育、科学、文化の協力と交流を通じて、国際平和と人類の福祉の促進を目的とした国際連合の専門機関。
ら行	ライフステージ	人間が誕生してから死に至るまでのそれぞれの過程における生活上の各段階のこと。幼年期、児童期、青年期、老年期などがある。
	レファレンス・サービス	利用者が調べたい情報に対して、図書館内にある適切な資料を紹介するサービス。調べ物相談。

第2次五泉市生涯学習推進基本計画

2018（平成30）年3月

発行：五泉市教育委員会 生涯学習課

〒959-1862 新潟県五泉市旭町7番11号

電話：0250-42-5195 FAX:0250-43-4190

※令和4年3月1日現在、住所は次のとおりです

〒959-1861 新潟県五泉市栗島1番22号



「マナビィ」について

文部科学省の依頼により、故・石ノ森章太郎（漫画家）が無償でデザインした生涯学習のマスコットマークです。生涯学習の「学ぶ」とみつばちの「Bee」を合わせ、「マナビィ」と名づけられました。